2023年度日本政府（文部科学省）奨学金留学生
JAPANESE GOVERNMENT (MEXT) SCHOLARSHIP FOR 2023

日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 留 学 生
コ ー ス ガ イ ド
④

COURSE GUIDE OF
JAPANESE STUDIES PROGRAM
④

番号 No.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
	国立大学 National University			
53	鹿児島大学 Kagoshima University	鹿児島県鹿児島市 Kagoshima-shi, Kagoshima	····· 1	(b)
54	琉球大学 University of the Ryukyus	沖縄県西原町 Nishihara-cho, Okinawa	····· 4	(a)
	公立大学 Public University			
55	神戸市外国語大学 Kobe City University of Foreign Studies	兵庫県神戸市 Kobe-shi, Hyogo	····· 7	(b)
	私立大学 Private University			
56	青森中央学院大学 Aomori Chuo Gakuin University	青森県青森市 Aomori-shi, Aomori	····· 10	(b)
57	慶應義塾大学 Keio University	東京都港区 Minato-ku, Tokyo	····· 13	(b)
58	上智大学 Sophia University	東京都千代田区 Chiyoda-ku, Tokyo	····· 15	(a)(b)
59	大東文化大学 Daito Bunka University	東京都板橋区 Itabashi-ku, Tokyo	····· 18	(b)
60	法政大学 Hosei University	東京都千代田区 Chiyoda-ku, Tokyo	····· 21	(a)
61	早稲田大学 Waseda University	東京都新宿区 Shinjyuku-ku, Tokyo	····· 24	(b)
62	創価大学 Soka University	東京都八王子市 Hachioji-shi, Tokyo	····· 27	(b)
63	南山大学 Nanzan University	愛知県名古屋市 Nagoya-shi, Aichi	····· 30	(b)
64	北陸大学 Hokuriku University	石川県金沢市 Kanazawa-shi, Ishikawa	····· 33	(b)
65	愛知淑徳大学 Aichi Shukutoku University	愛知県長久手市 Nagakute-shi, Aichi	····· 36	(b)
66	京都外国語大学 Kyoto University of Foreign Studies	京都府京都市 Kyoto-shi, Kyoto	····· 39	(b)
67	同志社大学 Doshisha University	京都府京都市 Kyoto-shi, Kyoto	····· 42	(b)
68	大阪樟蔭女子大学 Osaka Shoin Women's University	大阪府東大阪市 Higashiosaka-shi, Osaka	····· 45	(b)
69	神戸女子大学 Kobe Women's University	兵庫県神戸市 Kobe-shi, Hyogo	····· 48	(b)
70	山陽学園大学 Sanyo Gakuen University	岡山県岡山市 Okayama-shi, Okayama	····· 50	(a)

＜Note＞
1.「研修コース」(Type of Course)

(a) ··· 主に日本事情・日本文化に関する研修
A course intended mainly to study about Japan and Japanese culture

(b) ··· 主に日本語能力の向上のための研修
A course intended mainly to improve Japanese language proficiency

2. 具体的な研修内容など、大学を選択する上で分からないことがある場合は、必ず大学へ問い合わせてください。
If you have questions about the detail of the training program, please contact the university directly.

鹿児島大学（鹿児島県）

九州の南端で<日本>を学ぶ･<日本>を研究する基礎作りをしませんか！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

１）特色と歴史

鹿児島大学は、九州最南端に位置する 9学部、9 研究科およびグローバルセンターや国際島嶼教育研究センターなどの教育・研究施設を有する国立の総合大学です。鹿児島大学が新制国立大学として発足したのは昭和24年です。はじめは文理、教育、農、水産の4学部からスタートしましたが、その後、医学部、工学部、歯学部、共同獣医学部、各種大学院等を整備して今日に至っています。

文系学部は法文学部と教育学部があり、さまざまな分野の教員が在籍しています。教員の専門分野については、本学のHPを参考にして下さい。

２）教員・学生数等

学部生（留学生）	8,571名	（143名）
大学院生（留学生）	1,559名	（151名）
教員	1,184名	
職員	1,553名	

② 国際交流の実績

現在、学部生8,571名のうち留学生143名、大学院生1,559名のうち留学生151名が在籍しています。

過去10年間の日本語・日本文化研修留学生の出身と専攻分野は以下の通りです。この中の何名かは鹿児島大学大学院への進学を希望する他、再来日して鹿児島の地元企業に就職しています。

出身…タジキスタン、スリランカ、エジプト、ブラジル、韓国、中国、ベトナム、ポーランド、ウクライナ、ラトビア、スペイン、キルギス、コスタリカ、トルコなど。

専攻分野…日本語学、日本史、日本文学、政治学、経済学、社会言語学、日本文化論など。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数294人、日研生7人
2021年：留学生数303人、日研生8人
2020年：留学生数310人、日研生5人

④ 地域の特色

鹿児島市は人口約60万人を有し、地域の特性を生かして古くから海外との交流により発展してきた都市です。古くはフランシスコ・ザビエルの来航、また藩政時代から海外貿易に力を注ぎ、幕末には国禁を犯して英国に留学生を送るなど海外交流の歴史は古くから続いています。

桜島を目の前に眺望できる鹿児島市は、東洋のナポリとうたわれイタリアのナポリ市を始め、オーストラリアのパース市、アメリカのマイアミ市と姉妹都市盟約を、中国の長沙市とは友好都市盟約を結んでいます。

気候も温暖で、年間を通して過ごしやすく、生活環境、勉学環境も整い、快適な留学生活を送ることができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

１）次のような研修留学生を募集します。

a）日本語能力（聞く・話す・読む・書く）をさらに伸ばしたい人。
b）日本文化や日本文学､日本社会､異文化コミュニケーションを中心に総合的に学びたい人。
c）鹿児島地域の文化、歴史に興味を持ち、研究テーマとして発展させたいと考えている人。

２）本学のコースは、このような研修留学生を対象に、その留学生の日本語能力に応じたきめ細かい指導を行っています。また鹿児島地域の歴史・地理・文化を学んだあと、実地研修や地域の人との交流活動を行い、より深く日本・鹿児島を理解できるプログラムを目指しています。

③ 受入定員

8名（大使館推薦3名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の(a)及び(b)の条件を満たしている者が、このコースを受講できます。

(a) 外国の大学に 1年以上在籍し、日本語または日本の文化､文学､社会等に関する分野を主として 学習している者。
(b) 日本語能力試験のN3以上に合格または同等の能力を有する者。

⑤ 達成目標

日本語能力試験で、来日時より 1つ上のレベルの合格を目標とします。また、日本語によるポスター発表、修了レポートの作成を達成目標としています。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年10月1日　～ 2024年8月31日
修了式は8月を予定（2022年は8月9日に開催）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月　～　2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日
10月：　秋期オリエンテーション
11月：　大学祭
12月：　インターナショナル・ナイト
4月：　春期オリエンテーション
8月：　ポスターセッション、修了式
8月下旬：帰国（2022年は8月10～31日頃）

※コロナウイルス感染症の拡大により変更の恐れがあります。

⑨ コースの修了要件

規定の単位を取得し、日本語ポスター発表及び修了レポートを提出することが条件です。コース修了時には修了証を発行するとともに、受講した科目については成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴

授業は原則として、Ⅰ期・Ⅱ期各15週間開講します。

留学生の日本語力、留学目的に合わせて**〈日本能力向上コース〉**と**〈日本語・日本文化研究コース〉**のどちらかを受講します。コースの選択については、プレースメントテストの結果をもとに、グローバルセンターの教員と相談して決めます。

〈日本語能力向上コース〉

日本語力に応じてグローバルセンターの日本語科目や文化の科目を中心に受講します。

科目群	科目数	単位･時間数
日本語科目	6科目	10単位 300時間
文化学修科目	2科目	4単位 60時間
修了レポート ポスター発表	2科目	4単位 120時間
自由選択科目	2科目以上	2単位以上 60時間以上
参加型科目	1科目	単位なし 60時間
コース修了に 必要な単位と時間	13科目	20単位 600時間

１）必須科目

プレースメントテストの結果に基づいて指定されたレベルの科目を受講してください。授業は、すべて日本語で行われます。

日本語学修科目

会話：場面や相手に応じた会話のスタイルを学ぶ。
読解：読解に必要な技術を学ぶほか、要約、発表資料作成などを行う。
作文：レポート、論文作成の基礎を学ぶ。また先生や目上の人に送るような、やや改まったメールの書き方を学ぶ。

文化学修科目

日本社会と文化１　留学生のための異文化理解

修了レポート、ポスター発表

・各自テーマにそった修了レポートを作成
・修了時に、日本人学生や地域の人を招いてポスター発表を行う

２）選択科目：科目例

総合日本語　（30時間）
Intercultural Communication for Global Citizens（30時間）

〈日本語・日本文化研究コース〉

グローバルセンターの日本語科目の他に学部の専門科目、共通教育の文化学修科目を受講します。

科目群	科目数	単位数	時間数
日本語科目	2科目	2単位	60時間
文化学修科目	1科目	2単位	30時間
修了レポート ポスター発表	2科目	4単位	120時間
自由選択科目 専門科目	8科目以上	16単位以上	240時間以上
参加型科目	1科目	単位なし	60時間
コース修了に 必要な単位と時間	14科目	24単位	510時間

１）必須科目

共通教育またはグローバルセンターの日本語科目

日本語Ⅰ　日本語Ⅱ　日本語Ⅲ　日本語Ⅳなど
大学生活に必要なアカデミックジャパニーズを学ぶ。

文化学修科目：日本事情Ａ、Ｂ、日本社会と文化２

文化の定義、慣習とマナー、鹿児島の歴史、留学論、地理、教育、伝統、人間関係論などを扱う。

修了レポート、ポスター発表

・指導教員の指導のもと、各自の専門分野の研究を行い、レポートを作成する。
・修了時に、日本人学生や地域の人を招いてポスター発表を行う。
＊レポート集を作成する。

２）選択科目

自分の専門分野に関する学習・研究のために、所属する学部などで開講されている授業科目について、指導教員と相談の上、受講する科目を決めます。

科目例
多言語文化論演習（30時間）
多文化交流論（30時間）
言語行動論（30時間）国語学概論（30時間）

〈日本語能力向上コース〉
〈日本語・日本文化研究コース〉共通

3） 見学、地域交流等の参加型科目

多文化共生の地域づくり（30時間）

特定の地域をフィールドとし、地域活性化策について日本人学生と共に調査研究および提言を行います。
講義、ディスカッション、フィールドワークを経て最終プレゼンを行います。

地域行事への参加 （単位なし）

地域の国際交流行事に参加し、国の紹介などを行う他、参加レポートを作成します。

4） 日本人学生との共修の機会

共通教育科目ではアクティブラーニングを推奨しています。授業の中で日本人学生とディスカッションをしたり、プロジェクトワークを行ったりします。
アクティブラーニングが授業に占める割合はシラバスに記載されていますので、事前に確認することができます。
また、授業以外に留学を希望する日本人学生と、相互の言語や文化を学ぶための活動を行っています。

⑪ 指導体制

1）プログラム実施委員

氏名(職名)	所属	専門
和田　礼子（教授）	グローバルセンター	日本語教育 日本語文法
中島　祥子（准教授）	法文学部	日本語教育 異文化理解教育
梅崎　光（准教授）	教育学部	国語学 日本語の歴史
酒井 佑輔（准教授）	法文学部	地域研究・社会教育 (Non-formal Edu)
市島佑起子（講師）	グローバルセンター	日本語教育 社会言語学

2）指導体制

研修留学生の専門分野に応じて、教育学部・法文学部の教員の中から指導教員を 1名定め、学習・研究上のアドバイスを行っています。生活面の指導については、グローバルセンターと連携しながら行います。

■宿　舎

・鹿児島大学内の留学生用の宿舎

国際交流会館（郡元キャンパスから徒歩20分）

単身室　25,000円/月

※光熱水費が別に必要です。

※部屋の割り当てについては希望に添えない場合があります。

※電子たばこを含め敷地内は禁煙です。

年度	人数	宿舎入居状況
2022年度	7名	国際交流会館へ入居
2021年度	8名	国際交流会館へ入居
2020年度	5名	国際交流会館へ入居

・過去3年間の日研生の入居状況（各年度10月現在）

■修了生へのフォローアップ

日研生が帰国した後も、プログラム実施委員が必要に応じてメール送受信を行っています。

[修了生の進路(例)]
・日本や母国の大学院へ進学
・日本に再来日して就職
・母国で日本関連企業に就職

■問合せ先

＜担当部署＞
鹿児島大学学生部国際事業課
住所：　〒890-0065
　　鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番30号
TEL：　+81-99-285-7325（直通）
FAX：　+81-99-285-7083
Email：　ryugaku@kuas.kagoshima-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
鹿児島大学グローバルセンター：
　http://www.gic.kagoshima-u.ac.jp/
鹿児島大学：
　https://www.kagoshima-u.ac.jp/

琉球大学（沖縄県）

青い空・青い海、色彩豊かな自然に囲まれた学習環境

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1)特色と歴史

琉球大学は沖縄が米軍統治下にあった1950年に創設、1972年の日本への施政権返還に伴って国立大学となりました。日本唯一の亜熱帯島嶼地域という特性を活かし、熱帯地域の海洋、島の自然と文化、言語等の研究・調査が盛んな大学です。総合大学で、以下の7学部、8研究科があります。

学部	大学院
人文社会学部	人文社会科学研究科
国際地域創造学部	地域共創研究科
教育学部	教育学研究科
理学部	理工学研究科
工学部	
農学部	農学研究科
医学部	医学研究科
	保健学研究科
	法務研究科

2)教員・学生数（2022年5月1日現在）

教育研究職員数：798名
学部学生数：7,020名
大学院生数：835名
専門職学位課程：91名

② 国際交流の実績（2022年4月5日現在）

国際交流協定締結大学・機関数：
129大学・機関(41ヶ国・地域)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

（留学生数 2022年5月1日現在、
日研生数：2022年10月1日現在）

2022年：留学生数279人（41ヶ国・地域）
日研生2人（2ヶ国）
2021年：留学生数254人（39ヶ国・地域）
日研生1人（1ヶ国）
2020年：留学生数261人（42ヶ国・地域）
日研生1人（1ヶ国）

④ 地域の特色

日本の最も南に位置する沖縄は、1429年から1879年までの約450年の間、琉球王国という一つの国でした。また、第二次世界大戦後は1972年まではアメリカ軍の施政権下に置かれました。このように、日本本土と異なる歴史的背景を持つ沖縄は、歌や踊りなどの芸能、言語、食文化をはじめさまざまな文化が息づいている地域です。また、温暖な気候と美しい自然に恵まれ、国内有数のリゾート地となっています。空手の発祥地としても有名です。そんな沖縄で学べば、「日本」全体を一つの文化圏ととらえる型にはまった視点からではなく、多角的に日本をとらえることができるようになるでしょう。

ぜひ沖縄の文化に触れてみてください。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a)主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

1)社会や文化の「比較」に重点を置いた研修を行う中で、日本の社会や文化全般と沖縄独特の地域の社会や文化について理解を深めることができます。
2)研究に必要な日本語の高度な運用力、正確な読解力と文章構成力の養成を行い、日本語学や日本の社会、文化の研究手法や知識を身につけることができます。
3)専門の教員に指導を受けつつ、興味のある分野について知識を深めることができます。同時に、様々な関連科目も学べます。
4)地域の教育機関や文化施設への見学、文化行事への参加など、様々なアプローチで日本および沖縄を学ぶことが可能です。
5)日本人学生と積極的な交流も図り、授業だけでなく大学生活の中で日本を学ぶことができます。日本人学生・他の留学生と交流できる「しばふジャパニーズ」というサークルが活発に活動しています。参加すれば友人の和が広げられます。

③ 受入定員

14名（大使館推薦10名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本国以外の大学の学部に在籍（主に3年次以上）している者。また日本語・日本文化に関する分野を主専攻にしている者。日本語力は日本語能力試験N2以上の能力があることが望ましい。

⑤ 達成目標

1)日本語母語話者の大学生並みの文章が書け、口頭発表ができるようになること。
2)日本語を用いて日本語や日本文化に関する研究ができる能力を身につけること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬　～ 2024年8月下旬
（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）
※9月末の指定日に来日できること。

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月　～　2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬　渡日
10月 オリエンテーション
　　市場見学
11月 沖縄地域留学生交流会（パーティー）
　　組踊鑑賞会
12月 グローカルフェスティバル、
　　茶道体験、新聞社見学
1月　泡盛工場見学、
　　着物の着付け体験
2月　沖縄県日本語弁論大会
3月　博物館・美術館見学
4月　研究レポート中間発表
5月　放送局見学
6月　平和学習、
　　平和祈念公園見学
　　和菓子作り体験
8月　レポートの完成、
　　研究発表会、
　　修了式
8月下旬　帰国（2022年は8月24日）

⑨ コースの修了要件

所定の課程（年間448時間以上、必修科目20単位、選択科目8単位取得）の研修を終え、研究レポート等を提出し、指導教員とプログラム実施委員がその成果を認めた者。

【修了研究の内容】

学期中は週に1回、「課題研究Ⅰ・Ⅱ」「課題研究Ⅲ・Ⅳ」の授業の中で指導を受けながら進める。授業内で定期的に進捗状況を口頭発表形式で報告する。研究成果は7～8月頃に開催する最終発表会で口頭発表を行い、レポートにして提出する。

【単位認定】

受講した科目については単位を出す。研修期間内に履修した科目については、成績証明書と履修内容等を記した文書・シラバスを出す。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴

全学習を日本語で行い高度な日本語力を習得するだけでなく、多角的に物事を捉え分析する思考力を養い日本を通して自国や多様な世界を見る広い視野を持つ人材の育成を特徴とする。授業は原則として、前期・後期各16週開講する予定。1学期につき、224時間(112コマ)以上履修しなければならない。

２）研修・コース開設科目

Ⅰ）必須科目（1学期　80コマ、160時間）・内容

授業科目名	内　　容
課題研究Ⅰ・Ⅲ	図書館の利用法、資料の検索方法を学び、研究レポートを作成する。また研究発表のプレゼンテーション技能の養成を行う。
課題研究Ⅱ・Ⅳ	講義形式ではなく教員の助言を受けながら、自身が設定した研究テーマについて受講生が自発的に研究活動を行いレポート執筆することを目標とする。
日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ	改まった文の書き方、論文の書き方（アカデミック・ライティング）を学ぶ。
日本文化特別研究Ⅰ・Ⅱ	伝統文化から現代の社会的な状況や現象を把握したり理解したりするとともに、文化とは何か分析・考察するなど、思考力を養う。学外見学あり。
琉球文化特別研究Ⅰ・Ⅱ	琉球王国時代から現代までの歴史的背景や社会的な変遷等を通して沖縄人とは、沖縄文化とは何かを学ぶ。学外見学あり。

Ⅱ）選択科目（1学期　32コマ以上、64時間以上）
・内容

※選択必修科目(1)：
4科目の内各学期最低1科目履修

授業科目名	内　　容
国際事情Ⅰ・Ⅱ	主に20世紀後半の世界の出来事を振り返り、これらが現在の状況とどう結びついているのか、学び・考える。
日本文化論Ⅰ・Ⅱ	日本文化論の代表的な『茶の本』『武士道』などを通して日本文化について考察。

※選択必修科目(2)：
4科目の内各学期最低1科目履修

授業科目名	内　　容
日本語演習Ⅰ・Ⅱ	実際の日本語の現象を注意深く観察し、日本語学の基礎となる知識を深める。
日本語作品講読Ⅰ・Ⅱ	文学作品の語彙表現、ストーリー展開について理解を深め作品が生まれた社会背景等についても学ぶ。

※その他の選択科目等

他の留学生とともに学べる日本語科目や、沖縄ならではの科目（(4)を参照）も受講可能である。

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
　上記の「日本文化特別研究Ⅰ・Ⅱ」「琉球文化特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、学外見学も行う。

【主な見学先】中城城址、平和祈念公園・資料館、新聞社、沖縄県議会議会棟、牧志公設市場、酒工場、テレビ局、埋蔵文化財センター、県立博物館等

【体験・見学】組踊の鑑賞、茶道体験、和菓子作り、ぶくぶく茶体験、着物・ゆかた着付け、書道

【地域交流】学内のグローカルフェスティバル、沖縄県主催の外国人による日本語弁論大会、全国の弁論大会などに積極的に参加すること、小中高校訪問などの機会を通して国際交流を図る。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
　学生の日本語力や専門分野、修了研究のテーマに応じて、学部授業も受講可能である。それらの授業を選択すれば日本人学生と共修することができる。

【沖縄ならではの科目】

授業科目名	内　　容
空手	沖縄発祥の空手の基本を通して体幹、下肢、メンタル強化等の身体機能向上を図る。
うちなーぐちあしび	うちなーぐち（沖縄語）に関する基礎知識を学び、文型練習を通して話したりしながら、沖縄語に親しむ。
現代沖縄地域論	「沖縄」地域の特性や課題についてそれぞれの専門家を講師としてオムニバス形式の授業を行う。
琉球学入門	琉球の歴史、文化、言語、自然環境等の地域特性と多様性について理系・文系の教員が担当するオムニバス形式の授業。

⑪ 指導体制
　研修生は国際地域創造学部に所属し、下記の指導教員が学業、生活両面にわたって必要に応じて個別に指導にあたる。下記の教員以外にも国際教育センターと国際地域創造学部の適切な専門分野の教員にも研究指導に関して協力をお願いする。
　また、日本人学生がチューターとして、一人ずつ付き、学習や生活のサポートをする。

【プログラム実施委員】
金城尚美 国際地域創造学部
　教授(日本語教育・教育工学)
金城克哉 国際地域創造学部
　教授(言語学・日本語教育)
渡真利聖子　グローバル教育支援機構
　講師(日本語学・日本語教育)

■宿　舎

【室内設備】机、椅子、棚
【共同設備】シャワー室、洗濯室、Wi-Fiアクセスポイント、ラウンジ
※ベッドのマットレス、布団、枕等は備え付きではありません。

（写真：新混住棟）

○キャンパス内の学生寮(日本人学生と共用)に入寮する。
○沖縄は、物価が安く生活しやすい。

（写真：新棟）

【留学生宿舎、民間アパートの費用（月額）】

		寄宿料	維持費	光熱費
学生寮	一般寮	料金の詳細については以下国際教育課HPをご参照ください。		
	混住棟			
	新混住棟			
	新棟			
民間アパート		￥35,000程度		使用実績額

<国際教育課HP>https://ges.skr.u-ryukyu.ac.jp/future-students/dormitory/

■修了生へのフォローアップ

①修了生の主な進路
1)就職：日系企業(日本国内または母国)、貿易会社経営、母国での通訳やガイド、翻訳者、JETプログラムの国際交流員、外国語教師、大学の教員・研究員、日本でのタレント活動
2)進学：琉球大学または日本国内の他大学の大学院（研究留学生(国費)として）
②フォローアップの実績
Facebookの日研生同窓会ページ等で連絡を取りあっている。

■問合せ先

＜担当部署＞
琉球大学国際教育課
住所：　〒903-0213
　　沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL：　+81-98-895-8103（直通）
FAX：　+81-98-895-8826
E-mail：　koshien@acs.u-ryukyu.ac.jp

＜ウェブサイト＞
琉球大学国際教育センター留学生ユニットHP
日研生ページ：　http://isu.skr.u-ryukyu.ac.jp/future-students/nikkensei/
琉球大学HP：　http://www.u-ryukyu.ac.jp/

神戸市外国語大学 （兵庫県）

ていねいな指導と学びに適した環境で日本、神戸を体験しよう

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

神戸市外国語大学は、1946年に前身となる神戸市立外事専門学校として開学し、1949年に現在の神戸市外国語大学となりました。公立大学として、文化・教育の面で、地域社会・産業の発展に貢献するため、外国の言語の習得を通して、その言語が使用されている地域の文化・政治・社会・法律・経済などの幅広い視野から研究することを理念としてきました。

本学は、英米学科、ロシア学科、中国学科、イスパニア学科、国際関係学科の5学科を擁する単科大学ですが、所属学科に関わらず履修できる共通科目では、日本語や日本文化を客観的に分析・研究する科目を含む、さまざまな授業を提供しています。さらに、日本語・日本文化に関するより高度な知識の取得を希望する学生は、再留学し本学大学院で研究を継続することが可能です。

学生数：2,233人（2022年5月1日時点）
※うち大学院生：136人
教員数：314人　（2022年4月1日時点）
※うち非常勤講師：238人

② 国際交流の実績（2022年5月1日現在）

13ヵ国43大学・機関との交流協定締結による教員交換、学生の派遣・受入や、9ヵ国13大学・機関との学術研究交流、各種国際交流活動の支援などを実施しています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数93人、日研生2人
2021年：留学生数107人、日研生1人
2020年：留学生数126人、日研生0人
※うち交換留学生は毎学期20名程度在籍しています。

④ 地域の特色

神戸は、美しい海と山に囲まれた自然が豊かな地域で、人口は約151万人と日本でも有数の大都市です。古くから港町として発展してきたため外国人住民が多く、外国人コミュニティの活動も活発で国際色豊かな都市として知られています。その一方で、日本を代表する日本酒の蔵元が点在していたり、日本三古湯のひとつである有馬温泉があるなど、日本の伝統も息づくまちです。

また、神戸がある関西地域は、交通の便がよく、多くの歴史的名所が存在する日本の古都、京都や奈良、関西の商業の中心を担う大阪などへも日帰りで訪れることができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日研生は、日本語プログラムで海外大学からの交換留学生と一緒に学びます。

☆少人数クラスでのきめ細やかな指導☆

プレースメントテストと個人面談により、学生の日本語能力に応じた履修指導をします。教員との距離も近く気軽に質問できる環境です。

☆日本事情の授業☆

週1回の日本事情の授業では、日本社会や文化などについて学びます。また、自分の国や自分の国の文化・言語等について日本語を使って紹介する時間も設けられています。

☆フィールドトリップ☆

1学期につき、2回程度開催します。近年は淡路島や岡山城を訪れたり、お寺で写経や生け花の体験をしました。

☆日本人学生による生活サポート☆

学生1人につき、2～3人の神戸市外国語大学の学生がパートナーとなり日常生活のサポートを行います。

③ 受入定員　2名（大使館推薦2名、大学推薦0名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- 海外の正規学部生であること。
- 英語能力がCEFR B1, IELTS 4.5, TOEFL iBT 60 と同等以上であること。
- 日本語既習歴が、おおむね500時間以上であること。日本語能力が中級程度（日本語能力試験N3合格レベル）以上であり、N2あるいはN1を目指すレベルであること。
- 学習に意欲的で、日本語・日本文化への強い関心があること。

⑤ 達成目標

- 日研生は主に中級後期/上級のコースに入り、JLPT N2あるいはN1合格に相当する日本語能力を習得すること
- 日本社会や文化への知識や理解を深めること

⑥ 研修期間

2023年9月15日 ～ 2024年8月上旬
（在籍期間 2023年9月1日 ～ 2024年8月31日）

※2023年9月6日(水曜)が住居入居指定日です。
※修了式は2024年8月上旬を予定しています。

⑦ 奨学金支給期間

2023年9月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール（近年実施例）

【秋学期】
9月上旬：来日、住居入居
9月中旬：オリエンテーション、秋学期開講式
10月：　留学生歓迎会（秋）
　　フィールドトリップ（岡山）
11月：　学園祭、語劇祭
12月：　フィールドトリップ（写経）
　　交流イベント（京都・茶道体験）
2月：　期末テスト、秋学期修了式

【春学期】
4月：　春学期開講式
　　留学生歓迎会（春）
5月：　フィールドトリップ（淡路島）
6月：　フィールドトリップ（生け花）
7月：　交流イベント（京都・和菓子作り）
　　期末テスト（日本語プログラム）
8月上旬：春学期修了式
　　期末テスト
　　（学部授業）
8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

履修登録をした日本語プログラム科目に合格すること。
（少なくとも16コマ480時間の履修が必要）
※成績証明書は修了後本人に送付します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1）研修・コース科目の特徴

- 日本語プログラムの授業は、秋学期（9～2月）、春学期（4～8月）です。
- 来日後にプレースメントテストと個人面談を行い、日本語レベルに応じた履修指導をします。
- 授業は90分で、1学期につき15週あります。
  *授業時間数は、1コマ2時間（予習・復習の30分を含む）で計算し、1コマ合計30時間を1学期につき学習します。1コマ=1単位。

2）研修・コース開設科目

Ⅰ）必須科目
☆日本語：6コマ/学期
※日本語を集中的に学習する科目
※「聴解」、「読解」、「会話」、「作文(上級コースはレポート作成のクラスを含む場合がある)」、「文法」(2コマ)のクラス
☆日本語漢字：1コマ/学期
☆日本事情　：1コマ/学期

Ⅱ）選択科目
☆ビジネス日本語：1コマ/学期

※このほか、学部の授業を履修することも可能です。

3）見学、地域交流等の参加型科目

日本の文化・歴史についての理解を深めるため、フィールドトリップを学期に数回実施しています。防災・健康管理オリエンテーションでは、1995年の阪神・淡路大震災の資料館を訪問します。

4）日本人学生との共修の機会

海外大学からの留学生は、日本語のクラスに加えて、学部授業も学部生と一緒に受講することができます。（使用言語：主に日本語）

授業の内容は、諸地域の言語、言語学、文学、文化、歴史学、法学、商業、経済学、教育、心理学など幅広い分野に渡ります。

【過去の日研生の履修科目】
・日本文化論
・社会心理学入門
・日本文学論
・英語研究　　など

希望する学生は、クラブ活動などに参加することもできます。本学学生と一緒に武道や茶道などを学んだり、クラブの先輩から教えてもらったりすることができます。
（学内に茶室、弓道場、武道場の施設があります。）

5）その他

■ 「GAIDAI Chat」
留学生の母国語でおしゃべりをして交流を深める場です。各国の文化や生活様式、音楽やスポーツなど、気軽に意見交換ができます。

■ さまざまな講演会に参加可能
学内で開催される、本学客員教授や外部講師による講演会に無料で参加できます。

⑪ 指導体制
・中井幸比古
（教授、国際交流センター副センター長、専門：日本語学）
・岩男考哲（教授、日本事情担当、専門：日本語学）
・勝田千絵
（日本語講師、日本語プログラムコーディネーター）
・日本語非常勤講師3名

■宿　舎

初期費用：　25,000円
家　　賃：　279,000円/学期
※学期初めに304,000円を払います。ただし、必要に応じて、分割払いができます。

宿舎は、2種類あります。
どちらも家具・キッチン・インターネットつきの1人部屋です。アパートは、大学から歩いて15分、またはバスで10分のところにあります。

■修了生へのフォローアップ

- これまでに本学で学んだ修了生の中には、母国の企業で日本語の通訳者として活躍している人もいます。また、帰国後に再来日し神戸市外国語大学大学院への進学を希望している学生もいます。
- 神戸市外国語大学への再留学を希望する学生は、必要に応じて支援します。

■問合せ先

公立大学法人
神戸市外国語大学

＜担当部署＞
神戸市外国語大学国際交流センター

住所：〒651－2187
兵庫県神戸市西区学園東町9丁目1

TEL：　+81-78-794-8171（直通）
FAX：　+81-78-794-8178
Email：international-office@office.kobe-cufs.ac.jp

＜ウェブサイト（日本語）＞
神戸市外国語大学：
http://www.kobe-cufs.ac.jp/

国際交流センター：
http://www.kobe-cufs.ac.jp/international/center/

日本語プログラム（JLP）：
http://www.kobe-cufs.ac.jp/international/center/japanese_language_program.html

青森中央学院大学 （青森県）

日本語学習と日本文化・地域交流が体験できる研修プログラム

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

青森中央学院大学は青森市内にあり、時代のニーズを先取りした日本で唯一の「経営法学部」を設置している他、大学院地域マネジメント研究科や地域マネジメント研究所を設置する大学です。
また、2014年には看護学部が開設され、看護師や保健師などの人材育成にも取り組み始めました。
青森中央学院大学は、1998年に開学した当初から、専門的職業人の養成、国際交流、地域貢献を教育および様々な体験プログラムにより実践しています。特に国際交流活動や地域貢献活動を国際交流センター・国際交流課を中心に積極的に行っており、高い評価を得ています。
その他、ラーニングコモンズやアクティブラーニング室、学生ラウンジ、フリースペース等を設置し、学生が学びやすい環境を整えています。

② 国際交流の実績

海外機関との協定校数：46校・1機関
うち大学間交流協定数：26校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数84人、日研生1人
2021年：留学生数93人、日研生1人
2020年：留学生数118人、日研生1人

④ 地域の特色

青森市は本州最北端の青森県にあり人口約28万人で、コンパクトシティを目指している中核都市です。
青森空港(国内線や韓国仁川・台北との国際線が就航)や「函館－青森－東京」間を結ぶ新幹線の新青森駅もあり、アクセスが便利です。
また自然が豊かで四季があり、農林水産業も盛んで、特に「青森のりんご」は世界でも有名です。人々は優しく親切で、物価も非常に安い都市であるため、留学生活がしやすい環境となっています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

（1）日本語の学習等
日研生は、経営法学部に所属し、留学生の日本語コースで授業を受けます。日本語コースは、初級から上級までレベル別で編成され、日研生は自分の能力に応じたクラスで学習する方式です。
日本語以外にも経営法学部で開講されている専門科目を受講することができ、研究テーマに応じて経営系や法学系の学習をすることもできます。
また、日本語担当教員が指導教員として指導にあたるため、きめ細かな指導を受けることができます。

（2）日本文化・体験研修等
年間約50回の国際交流活動・日本文化体験活動・農林水産業体験活動・ホームステイ等のプログラムを用意しており、地域の人々と様々な交流活動をすることができます。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

・ＪＬＰＴ：N2級以上に合格していること。
・日本語又は英語で会話が可能であること。

⑤ 達成目標

・コース修了者はN1程度のレベルに達すること。
・文法力、会話表現、言葉遣い、ヒアリング等が適切に使えること。
・日本語・日本文化研修の結果をまとめ、レポート等にまとめること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月下旬　～ 2024年8月下旬
（2023年10月1日　～ 2024年8月10日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月　～　2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2022年は9月27日）
10月：開講式、オリエンテーション
11月：青森体験（りんご狩り）
　　地域交流体験（農家民泊）
12月：交流会（クリスマスパーティー）
4月：青森体験（観桜会）
5月：学生交流会
7月：研究発表
8月：修了式
8月下旬：帰国（2022年は8月30日）

⑨ コースの修了要件

・日本語必修科目3単位、選択科目6単位を取得すること。
・指導教員による演習を修了すること。
・日本文化・青森文化体験や地域交流体験に5回参加すること。
・必要単位を取得し、体験活動も行い、到達目標に達した場合、修了証書を発行します。
・コース要件を定められた研修期間より早く修了した場合、早期修了が可能です。
・成績証明書を発行することができます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴
・日本語の学習等
　初級から上級までレベル別で編成され、日研生は自分の能力に応じたクラスで学習し、読む・書く・話す・聞くの四技能を向上させます。
　また、日本語担当教員が指導教員として演習指導にあたり、きめ細かな指導を受けることができます。

・日本文化・体験研修等
　年間約50回の国際交流活動・日本文化体験活動・農林水産業体験活動・ホームステイ等のプログラムを用意しており、地域の人々と様々な交流活動をすることができます。

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目（コマ数、時間数）・内容

科目	コマ数 時間数	内容
日本語Ⅲ	60コマ 120時間	N2レベル 文法、読解、作文
日本語Ⅳ	30コマ 60時間	読解、作文、 レポート作成
学術日本語	60コマ 120時間	N1レベル 文法、読解、 レポート作成

Ⅱ）選択科目（コマ数、時間数）・内容

科目	コマ数 時間数	内容
暮らしと地域	15コマ 30時間	地域学習
暮らしと経済	15コマ 30時間	地域学習
日本の政治と経済	15コマ 30時間	日本の政治と経済を学ぶ
日本の歴史と文化	15コマ 30時間	日本の歴史と文化を学ぶ
日本の社会	15コマ 30時間	日本の社会を学ぶ

３）研修科目で地域の見学や地域交流等に参加出来る科目及びその具体的な内容

　インターンシップや地域密着型の課題探求科目があります。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

必修科目の日本語授業では、国際交流学生チューターが会話練習などのパートナーとしてクラスに入り、ともに学びます。
　選択科目の「暮らしと地域」と「暮らしと経済」は共修科目です。

⑪ 指導体制

日本語担当教員：田中　真寿美　准教授
日本語教育スタッフ：兒玉　晴代、風晴　彩雅
日本文化・体験研修等担当教職員：
　藤巻　啓森　　国際交流センター長・教授
　三浦　浩　　国際交流担当次長
　金川　利江子　国際交流課課長
留学生チューター：同国の先輩留学生が日常生活上の指導・助言等を行います。
国際交流学生ﾁｭｰﾀｰ：日本人学生との交流や行事等を通して有意義な留学生活になるように支援します。

■宿　舎

キャンパス内にある
　国際交流会館：一人部屋104室
　学術交流会館：一人部屋70室、二人部屋35室
の二つの学生寮に全員、入寮することができます。
　寮費は、渡日前に
　入寮費：全額免除
　寮費：308,000円(2023年10月～2024年8月)
　支払方法：外国送金
を前納します。
　電気代は日研生負担です。水道代・ガス代・ネット代はありません。

■修了生へのフォローアップ

　修了生にはFacebookなどを利用し、大学の情報を提供、双方向の交流を継続しています。
　また、海外同窓会のメンバーとして、帰国後も交流を進めています。

■問合せ先

＜担当部署＞
青森中央学院大学国際交流課

住所：〒0300132
　　青森県青森市大字横内字神田12番地

TEL：+81-17-728-0131（代表）内線1021、1028
FAX：+81-17-738-8333
Email：international@aomoricgu.ac.jp

＜ウェブサイト＞
青森中央学院大学：
　https://www.aomoricgu.ac.jp/
青森中央学院大学国際交流センター
　公式 Facebook：
　https://www.facebook.com/acguiec
　公式 You Tube：
　https://www.youtube.com/channel/UCmbBt90406nIqLh35gu6ISg

慶應義塾大学（東京都）

別科・日本語研修課程では、初期の段階から、受講者が将来専門分野において研究を行う際に有用な日本語の運用能力を養成することを重視している。また、受講者の留学目的に合わせて、多様な学習段階・科目を用意している。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

慶應義塾は、啓蒙思想家として歴史上名高い福澤諭吉によって1858年に創設された日本で最も古い歴史を誇る私学である。私学として最初の大学部が1890年に設けられ現在に至っている。1898年には幼稚舎が設置され、以来、小学校から大学までの一貫教育制度を拡充、発展させてきた。

慶應義塾は、大学とその他関連校により構成されており、伝統的に塾長が大学長を兼ねる。

学部名：
文学部, 経済学部, 法学部, 商学部, 医学部,
理工学部, 総合政策学部, 環境情報学部,
看護医療学部, 薬学部

大学院名：
文学研究科, 経済学研究科, 法学研究科,
社会学研究科, 商学研究科, 医学研究科,
理工学研究科, 経営管理研究科,
政策・メディア研究科, 法務研究科,
健康マネジメント研究科, 薬学研究科,
メディアデザイン研究科,
システムデザイン・マネジメント研究科

2) 学生数（2022年5月1日現在）
学部生：28,641名、大学院生：4,796名

3) 教員数（非常勤含む）（2022年5月1日現在）
6,394名

② 国際交流の実績

1)受入　外国人留学生在籍数　1,939名（2022年5月1日現在）
2)派遣　学生国外留学生数　92名（2021年5月1日現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年度	12名（EJ 10名、DJ2名）
2021年度	10名（EJ 9名、DJ1名）
2020年度	5名（EJ 4名、DJ1名）

EJ:大使館推薦
DJ:大学推薦

④ 地域の特色

三田は都心の港区にあり交通の便が良く活気がある。三田キャンパスは創立以来の歴史と伝統があり、落ち着いて勉学できる環境。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

直接教授法による日本語教育を行なっており、初級から上級まで多様な学習段階・コースが設けられているため、各学習者の必要や興味に応じてプログラムを組むことが可能である。専門分野との連繋を重視しており、将来学習者が専門分野で研究を行う際に有用な日本語力を初期の段階から養成するよう配慮している。上級学習者向けには日本文化に関する知識を深めるための日本文化科目を設け、各学部・研究科の科目等履修も一部認めている。自由科目として国際センター設置の英語による講座も履修することができる。

③ 受入定員

180人（内、日研生定員は、EJ10名程度、DJ3名程度）

④ 受講希望者の資格、条件等

高等学校卒業生ならびにこれと同等以上の資格があると認められる者。大学で専門分野の教育を受けている者、あるいは既に受けた者が望ましい。

⑤ 達成目標

本課程では、幅広い学習者に対応できるカリキュラムを提供しているので、大学における専門分野の能力が高く、日本語学習に対する強い動機を持つ学生であれば、入学時の日本語能力のレベル、過去の日本語学習経験の如何は問わない。

学習段階は1から9まで分かれている。学期の初めに実施される学習段階分けテストの結果によって、学習段階が決定する。それぞれの学習段階の対象者と目標は下記のとおりである。

＜学習段階1～4＞
初級学習者を対象とし、日常生活に必要な会話と読み書きができるような日本語力の獲得を目標とする。

＜学習段階5～6＞
中級学習者を対象とし、話し言葉・書き言葉の両面において一般的な日本語の表現・理解ができるような日本語力の獲得を目標とする。

＜学習段階7～8＞
一般的な日本語の表現・理解に十分な日本語能力を有する者を対象とし、大学の講義の聴講、教科書・参考書の読解、レポート・答案の作成等に必要な日本語力の獲得を目標とする。

＜学習段階9＞
高度な日本語力を有する者を対象とし、専門分野の講義の理解、口頭発表や討論、専門書の読解、論文作成等に必要とされる専門的な日本語力の獲得を目標とする。

⑥ 研修期間（在籍期間）
2023年9月上旬　～ 2024年7月下旬
（2023年9月22日　～　2024年9月21日）

⑦ 奨学金支給期間
2023年10月　～　2024年7月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月上旬：渡日
9月中旬：秋学期オリエンテーション
9月下旬：秋学期授業開始
1月下旬：秋学期学期末試験
3月下旬：春学期オリエンテーション
4月上旬：春学期授業開始
7月中旬：春学期学期末試験
7月下旬：帰国
※留学生支援団体による各種活動（随時）
ウェルカムパーティー、スピーチコンテスト、交流会、見学会、伝統文化紹介、日本語クラブ、バザー等

⑨ コースの修了要件
修了の要件は、1年以上在学して異なる二つの学習段階において各学期に合格し、合計14単位以上を修得することとする。
合格の要件は、各自の学習段階に合った総合科目、技能別科目、日本文化科目、特化コースセット科目を組み合わせて、1学期につき1週間に7科目7単位以上あるいは週14時間相当の科目を履修し、単位を修得することとする。修了要件を満たした者には修了証が授与される。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色
１）研修・コース科目の特徴
基幹コースと特化コースに分かれている。日研生も一般の別科生と同じ授業を受講する。
＜基幹コース＞
別科・日本語研修課程の中心となるコース。
＜特化コース＞
書きことばを中心とする専門的な日本語の習得を目標として設けられたコース。

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目
総合科目・・・「読む・書く・聞く・話す」の四技能を総合的な活動を通して身に付ける科目。
技能別科目・・・「読む・書く・聞く・話す」の四技能をそれぞれに特化して身に付ける科目。
日本文化科目・・・日本の社会や文化に関する知識を深める科目。上級学習者を対象とする。
特化コースセット科目・・・特化コース専用の科目。

Ⅱ）選択科目
日本語による授業のほかに、自由科目として、国際センターに設置されている英語で行われる科目を履修することもできる。また、JLPT N2相当以上の学生には、学部・大学院開講の授業科目の一部を1学期に2科目4単位まで履修することが認められている。

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
なし

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
なし

⑪ 指導体制
指導体制（関係教員）の状況（2022年10月1日現在）
1)専任教員
日本語・日本文化教育センター所長　佐藤 孝雄
日本語・日本文化教育センター副所長　田中 妙子
学習指導主任　林 淳子

2)協力教員
専任教員　10名
非常勤講師　36名

3)事務責任者
学生部事務長　松田　健太郎

4)個別指導の実施
各レベルにレベルコーディネーターを置き、個々の学生の学習指導・生活相談等に常に対応できるようにしている。また、学習指導主任による学生への指導・支援体制も整えられている。

■宿　舎
慶應義塾大学では、留学生のための宿舎を一部用意している。ただし、部屋数に限りがあり、希望者多数の場合は抽選となる。
家賃55,000円～80,000円程度、通学時間60分程度。
＜過去3年間の日研生の宿舎入居状況＞
日研生はほぼ、慶應義塾大学の宿舎または国際交流会館（公的宿舎）に入居している。

■修了生へのフォローアップ
毎学期終了後、別科事務局から修了生にアンケートを行い、進路状況の把握に努めている。進路は多様であるが、もっとも多いのは「母国で就職」、「日本の大学院に進学」、「日本で就職」の3つである。多くの別科修了生がそれぞれの専門分野で更なるキャリアアップを果たしている。

■問合せ先
＜担当部署＞
慶應義塾大学学生部国際交流支援グループ
（文部科学省（国費）奨学金留学生担当）
住所　〒108-8345　東京都港区三田2-25-45
TEL　+81-3-5427-1608（直通）
FAX　+81-3-5427-1638
E-mail　ic-mext@adst.keio.ac.jp

＜ウェブサイト＞
慶應義塾大学国際センターホームページ：
http://www.ic.keio.ac.jp/

慶應義塾大学ホームページ：
https://www.keio.ac.jp/ja/

日本語・日本文化教育センターホームページ：
http://www.cjs.keio.ac.jp/

上智大学（東京都）

多様なバックグラウンドを持つ教員・学生と共に、東京の中心地で学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

グローバル教育における日本の先駆者
上智大学には毎年世界中から1,500人以上の留学生がやってきます。すべての学部学科が同じキャンパスに集約されているため、多種多様なバックグラウンドを持つ教員・学生とともに、グローバルな環境で学ぶことができます。

幅広い教学プログラム
上智大学は、60年以上にわたって英語によるプログラムを提供してきました。 学生は、日本の強みでもあるビジネスと経済、科学技術、環境研究を英語で学ぶことができます。 また、留学生向けにさまざまな日本語コースを提供しています。

日本の中心地、東京
上智大学は、東京の中心地に位置しています。伝統と現代の要素が混ざり合うユニークな文化を体験する貴重な機会が得られる、政治的および経済的なハブ都市である「東京」で日本を体感することができます。

教育プログラム・統計

学部：	9学部　29学科
研究科：	10研究科　27専攻
学生数：	13,000～14,000名 ※約1,500名が外国人学生 （世界80カ国以上）
常勤教員数：	約550名 （外国籍教員約100名）

② 国際交流の実績

上智大学には世界中に約400校の個性豊かな交換留学協定校・学術交流協定校があります。
2022年10月1日現在の協定校数：81カ国396大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数1,505名　日研生2名
2021年：留学生数1,429名　日研生1名
2020年：留学生数1,514名　日研生0名

④ 地域の特色

上智大学は、東京の中心部、千代田区にあり交通の便がよい一方で、皇居・迎賓館も近いことから周辺は比較的静かで、勉学する環境が整っています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a)主に日本事情・日本文化に関する研修
b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

★国際教養学部の授業はすべて英語で開講

英語で開講される科目を履修することで、学際的な日本研究に取り組むことができます。

開講科目の分野：
比較文化学、経済・経営学、社会科学

※外国語による授業数は、全授業科目の約20%である1,600科目以上

★日本語科目は習熟度別による少人数クラス

授業開始前に日本語プレイスメントテストを実施し、その結果に応じて、クラスのレベルを決定します。

③ 受入定員

6名
大使館推薦5名
大学推薦1名

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語・日本文化に関する分野を主専攻として専攻していること
渡日時に大学での日本語・日本文化学習期間が通算１年以上であること
日本語能力試験（JLPT）N2以上を保持していること
英語を母語としない場合は、下記いずれかの英語能力証明を保持していること
・TOEFL iBT 79点以上
・IELTS 6.0以上
・TOEIC 730点以上
・TOEFL PBT/ITP 550点
・ケンブリッジ英検　CPEまたはCAE

本学での留学期間が1年間であること

⑤ 達成目標

日本語科目：
言語教育研究センターが開講する多種多様な日本語科目を履修することで、日本語能力を向上させる。
専門科目：比較文化学、経済・経営学、社会科学
国際教養学部等で英語にて開講される各専門分野を専攻しながら、学際的に日本を研究し、知識を深める。

⑥ 研修期間（在籍期間）
2023年9月下旬　～ 2024年7月下旬
（2023年9月21日　～　2024年9月20日）

⑦ 奨学金支給期間
2023年10月　～　2024年7月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月中旬	渡日（通常9月17日前後） オリエンテーション
10月	秋学期授業開始
11月	ソフィア祭
12月	クリスマス行事
4月	春学期授業開始
6月	上智・南山大学競技大会（上南戦）
7月下旬	帰国

⑨ コースの修了要件

日本語科目または、日本事情・日本文化に関する授業を8単位以上履修すること。コース修了後、成績証明書が発行されます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴
すべて英語による履修が可能。日本語のみならず、人文学、社会学、経済学等の分野で日本に関する科目を幅広く学ぶことができます。

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目なし

Ⅱ）選択科目

【国際教養学部科目例】（週2コマ、1コマ100分）

比較文化分野
日本美術論入門、日本美術概論、越境日本美術論、視覚文化とジェンダー、日本美術史演習、比較美術史特講、日本美術史特講、日本文学入門、日本文学概論、比較文学研究、日本文学研究、アジア文学研究 、日本文学特講、日本演劇特講、日本の宗教、哲学･宗教学研究、仏教学概論、比較宗教学、宗教と象徴　等

社会科学分野
日本社会入門、日本研究概論、現代日本社会、政治と社会、日本文化史、日本女性史、日本近代史、日本外交史概論、日本史演習、日本の政治、日本の政治演習　等

経済・経営学分野
現代日本経済論、日本経営論、日本の人事労務管理論、経営学概論、国際金融論、金融論、比較経営学特講、国際マーケティング論、国際貿易論
等

※日本語で授業を受けられるレベルの学生は、外国語学部をはじめとする他学部開講の日本語言語学や日本語教育に関する科目を履修することができます。

Ⅱ）選択科目

【日本語科目】

Regular Track（週4～5コマ、1コマ100分）

初級：初級文法と漢字400字を学びます。「話す・聞く・読む・書く」の4技能を養います。

中級：中級レベルの文法と漢字800字を学ぶ。初級と同様に4技能の養成に力を入れています。

上級：新聞・雑誌・論説など生教材が用いられ、各段階に応じて量的、質的難易度が異なります。

Intensive Track（週10コマ、1コマ100分）

日本語学習のみを目的とするものが対象。日本語初級後半から上級までの4レベルがあります。

その他（週2コマ、1コマ100分）

専門日本語：上級の学習者は、ビジネス日本語、アカデミック日本語、英和翻訳のコースを取ることができます。

３）見学、地域交流等の参加型科目
アクティブ・ラーニングを取り入れた科目もあります。詳細については、下記シラバス検索をご参照ください。
シラバス検索：
https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/risyu/syllabus.html

４）日本人学生との共修等の機会
国際教養学部では正規生と同じ授業を受講することで、共修の環境が提供されています。

⑪ **指導体制**

責任教員：

国際教養学部長　Yiu Angela教授

事務責任者：　グローバル教育推進室長 吉野朋恵

指導体制：

入学時にアドバイザーを決め、本学での勉学が効果的にできるよう履修計画等を指導します。

■宿　舎

上智大学祖師谷国際交流会館

外国人留学生と日本人学生が共住する上智大学専用学生寮です。

所在地：東京都世田谷区上祖師谷 4－24－1

交通：小田急線「成城学園前」駅からバス

（上智大学までの所要時間：約50分）

月額寮費：45,000円

希望者は渡日前に上智大学グローバル教育推進室にご連絡ください。

自己手配

本学の学生寮に入居しない方に対して、ご相談に応じて、自己手配のサポートも行っています。

■修了生へのフォローアップ

・本学卒業生として現地ソフィア会（同窓会）に参加することが可能です。

・本学大学院への進学を希望する学生については、相談を受付けています。

・帰国後、メールにて修了後進路アンケート調査を行います。

■問合せ先

＜コース・カリキュラムに関する問合せ＞
国際教養学部事務室
TEL：　＋81－3－3238－4004

＜国費・事務手続に関する問合せ＞
グローバル教育推進室　国費留学生担当
住所：　〒102－8554
　　東京都千代田区紀尾井町7－1
TEL：　＋81－3－3238－3521
E-Mail：inbound-co@sophia.ac.jp

＜ウェブサイト＞
国際教養学部：
https://www.sophia.ac.jp/eng/program/undergraduate_c/UG_LA/index.html

上智大学：
http://www.sophia.ac.jp/

大東文化大学（東京都）

充実した日本語教育、書道をはじめとする日本文化が学べます

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

１）特色と歴史

大東文化大学は、中国古典の研究と漢学を振興する機関として、1923年に開学しました。2023年に創立100周年を迎えます。
創立以来、東洋の文化と西洋の文化を融合した新しい文化の創造を目指しています。
豊かな人格の形成に努め、併せて国際的な視野を持ち、世界の文化の進展と人類の幸福の実現に寄与できる人材を育成しています。
本学では、少人数制クラスできめ細かな学習指導や支援を受けることができます。また、日本人学生によるチューター制度や大東生との交流会も行っています。

２）学部・学生数等（2022年5月1日現在）

学部：文学部、経済学部、外国語学部、法学部、
国際関係学部、経営学部、
スポーツ・健康科学部、社会学部

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科、
外国語学研究科、アジア地域研究科、
経営学研究科、スポーツ・健康科学研究科

教員数：専任教員数　：　328名
非常勤講師数：　636名
学部学生数　：　11,153名
大学院生数　：　120名

② 国際交流の実績

大学間協定校数：27カ国　109大学
外国人留学生数：413名
（2022年5月1日現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数 413人、日研生 2人
2021年：留学生数 393人、日研生 1人
2020年：留学生数 381人、日研生 0人
（新型コロナウイルスの影響で日研生の受入なし）

④ 地域の特色

板橋キャンパスは都心に位置し、モダンなデザインと快適な学びの環境が両立しています。カフェテリアなど落ち着ける場所をはじめ、パソコン166台を常設した図書館など、理想的な学習環境が整っています。
東松山キャンパスは、緑豊かな大自然に囲まれた魅力あふれるキャンパスです。東京ドーム約6個分の広大な敷地に最新の施設や設備が整っています。緑あふれるキャンパスで落ち着いて学び、充実した学生生活を過ごすことができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語の授業を中心に研修を行います。また、日本文化・社会について学び、自分の専門分野の理解を深め、将来、日本との架け橋となる人材を目指します。
日本人学生と積極的に交流し、授業だけでなく大学生活全体を通して日本を学んでいきます。研修でのテーマを決め、修了レポート作成等に取り組むこともできます。

③ 受入定員

6名（大使館推薦5名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

・日本国以外の大学の学部に在籍している者
・自国の大学において、日本語・日本文化に関する分野を専攻する者
・JLPTのN2以上の日本語力があることが望ましい

⑤ 達成目標

・効果的な日本語運用ができるようになる
・文法・読む・書く・聞く・話すの総合的な日本語力、または、アカデミック・ジャパニーズを習得する
・日本の文化・社会について理解を深める
・自分の専門分野について知見を深め、帰国後の学習のさらなる充実につなげる

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月上旬～2024年8月下旬
（在籍期間：2023年9月1日～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年9月～2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月上旬	渡日（8月下旬から調整可能） オリエンテーション プレイスメントテスト
9月中旬	秋学期開始
9月下旬	ウェルカムパーティー
11月	大学祭 留学生国内研修旅行 近隣の学校との交流授業
1月	秋学期終了
2月	日本文化体験イベント
4月	春学期開始
6月	近隣の学校との交流授業
8月	留学報告会、春学期終了
8月下旬	帰国

※イベント等は新型コロナウイルスの影響等により変更することがあります

⑨ コースの修了要件

指定された科目を含め、年間 14科目（半期7科目）以上履修すること。受講した科目は単位認定する（単位取得条件：C評価以上）。

履修した科目については成績証明書（授業科目と成績評価を記載）を発行する。14科目以上単位取得した者には、修了証書を授与する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴

留学生の日本語力に合わせたコースが用意されています。日本語の授業に加え、日本文化・社会の知識を深めるコースも提供しています。

２）研修・コース開設科目

Ⅰ）必修科目

〇集中日本語コース（週6～8コマ×15週）

初級から中上級まで3つのレベルに分けて授業を行います。文法、会話、作文、読解、聴解を総合的に身に付けます。

〇発展コース（週3コマ×15週）

Ｎ2以上の日本語力があると判断された学生が履修できます。日本の大学の学部で勉強するために必要なアカデミック・ジャパニーズを学びます。

・理解とコミュニケーションＡ/Ｂ
・日本語文章表現Ａ/Ｂ
・資料・文献読解Ａ/Ｂ

発展コースの日本語科目を履修した者は、この授業の他に、内容コース、学部の科目を4科目以上（各学期）履修しなければなりません（学部科目の一部に制限あり）

Ⅱ）選択科目

〇内容コース（各1コマ×15週）

日本文化・社会や異文化コミュニケーションについて学びます。留学生対象の授業です。Ｎ2以上の日本語力があると判断された学生が履修できます。

・現代日本の諸相Ａ/Ｂ（コミュニケーション）
・日本の政治・経済・社会Ａ/Ｂ
・日本の文化・芸術Ａ/Ｂ
・日本の歴史Ａ/Ｂ

※その他、学部で開講されている科目を選択、受講可能です（一部制限あり）。

3)　研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

科目としては開講しませんが、以下のような課外活動を予定しています（新型コロナウイルスの影響による実施内容の変更有）

・近隣の小学校、中学校、高等学校での交流授業
・地域国際交流協会主催行事への参加
・各種日本語スピーチコンテストへの参加
・一般家庭へのホームステイ（1泊2日）

4）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・現代日本の諸相Ｂ

日本人学生とグループになって課題解決型のディスカッション活動を日本語で行い、成果を発表します。

・グローバルスタディ 1～8（英語・日本語開講）

日本人学生とペアになり会話活動を通してお互い学んだり、日本や世界の文化や歴史を日本人学生とのグループワークを通して学んだりします。

⑪ 指導体制

責任者： 国際交流センター所長
指導体制：
専任教員（教授）　正宗　鈴香
特任教員（准教授）　大河原　尚
非常勤講師 8名

国際交流センター職員　9名

■宿　舎

留学中は大学寮に滞在することができます。
※ドーミー鶴ヶ島が満室の場合、別の寮を紹介します

【ドーミー鶴ヶ島】
定員：22名
設備： バストイレ、冷蔵庫、机、椅子、ベッド、エアコン、インターネット
（キッチン、洗濯機、電子レンジは共用）

費用：
月6万円～（若干の値上がり予定）
※8月上旬までの退寮が必要、以後は各自で滞在先確保が必要

オプション:
・食事(朝・夕 ※土日は除く） 月額17,400円
・寝具レンタル 半年17,820円、1年29,700円(若干の値上がり予定)

支払い方法： 来日前に30万円ほど（5カ月分）の寮費の請求書をメールでお送りします。
来日前に海外送金で支払いを行って下さい。困難な場合は、柔軟に対応いたします。

■修了生へのフォローアップ

日本の大学・大学院への入学希望者や、
企業への就職を希望している留学生に対しては個別に相談・アドバイスを実施します。

■問合せ先

<担当部署>
大東文化大学国際交流センター（板橋）
住所　〒175－8571
東京都板橋区高島平1-9-1
TEL　＋81-3-5399-7323
FAX　＋81-3-5399-7823

大東文化大学国際交流センター（東松山）
住所　〒355-8501
埼玉県東松山市岩殿560
TEL　＋81-493-31-1536
FAX　＋81-493-31-1535
E-mail　dbuinter@jm.daito.ac.jp

<ウェブサイト>
大東文化大学　ホームページ
https://www.daito.ac.jp/

大東文化大学　国際交流センター　ホームページ
https://www.daito.ac.jp/international_exchange/

英語版（English）
http://www.daito.ac.jp/english/

法政大学（東京都）

日本語能力が高い学生は、法政大学全ての正規授業も履修可能

■大学紹介

① 大学の特色及び概要
法政大学は、1880年東京法学社として設立され、140年の歴史を持つ日本で最も歴史と伝統のある私立大学の1つです。現在は15学部、15大学院研究科、3インスティテュート、そして2専門職大学院を擁し、学生数は約30,000人、教職員数は約1,200人、3キャンパス(市ヶ谷、多摩、小金井)を有する、日本屈指の総合大学です。本制度での留学生は、東京の中心に位置する市ヶ谷キャンパスで学びます。

学部：法、文、経済、社会、経営、国際文化、人間環境、現代福祉、キャリアデザイン、グローバル教養、スポーツ健康、情報科学、デザイン工、理工、生命科学

大学院：人文科学、国際文化、経済学、法学、政治学、社会学、経営学、人間社会、情報科学、政策創造、デザイン工学、公共政策、キャリアデザイン学、理工学、スポーツ健康学、連帯社会ｲﾝｽﾃｨﾁｭｰﾄ、総合理工学ｲﾝｽﾃｨﾁｭｰﾄ、国際日本学ｲﾝｽﾃｨﾁｭｰﾄ
専門職大学院：法務研究科、イノベーション・マネジメント研究科

② 国際交流の実績
・海外交流協定大学　：
　51ヶ国・地域、257大学・機関
・交換留学生の受入れ：
　毎年約100名（22ヶ国・地域）
※22ヶ国・地域：アメリカ、イギリス、イタリア、ウズベキスタン、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、韓国、スイス、スウェーデン、スペイン、タイ、台湾、チェコ、デンマーク、ドイツ、フランス、マレーシア、メキシコ、ロシア、中国

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績
2022年：留学生数 1075人、日研生 4人
2021年：留学生数 1071人、日研生 4人
2020年：留学生数 1180人、日研生 4人

④ 地域の特色
法政大学市ヶ谷キャンパスは、東京の中心の千代田区に位置し、交通の便が非常に良い場所にあります。新宿や渋谷などの主要エリアへも電車で15分で行くことが出来ます。近くには、神楽坂や神社など、江戸時代から続く歴史ある観光スポットがあり、大学から徒歩でアクセスすることが出来、大都会の雰囲気とは異なる日本の伝統的な雰囲気に触れることが出来ます。

■研修・コースの概要

① 研修･コースの目的
a)主に日本事情･日本文化に関する研修

② 研修･コースの特色
日本語運用能力の向上だけでなく、日本の文化･社会などに関する知識と、その実践的な経験を積んだ学生を育成することを目的としています。またコース修了後のキャリアに繋がる学びも重視し、キャリアパスへのフォローアップも行います。
1997年から交換留学生の受入を開始し、正規留学生含め12,000人以上の受入を行っています。日本語学習では、読解･文法･会話だけでなく、アカデミック日本語やビジネス日本語など多様な科目を学ぶことが可能です。各セメスター開始時に行われる日本語プレースメントテストにおいて、日本語能力検定2級(N2)レベル相当と判断される学生については、全ての正規授業を日本人学生と共に履修することも可能となります。授業内では、日本人学生とのアクティブラーニングも積極的に実施しています。
日本語授業はレベル1(初級)～レベル7(上級)で構成され、週に3～5コマ(1コマ100分)の授業をほぼ毎日履修することで、日本語運用能力を高めていくことを目的としており、敬語やビジネス文書、JLPT対策、大学院進学対策などキャリアアップを目的とした授業も実施しています。

日本語授業には日本人学生がTAとして関わり、授業のサポートを行います。

日本語で行われる全ての正規授業が履修可能であり、15学部15研究科3ｲﾝｽﾃｨﾁｭｰﾄの幅広い分野の専攻から、文学、歴史、経営、地域、若者など様々な視点で、日本の文化・社会に関する授業を履修することが可能となります。
授業内では、積極的にグループディスカッション、ディベート等が行われ、教室内で日本人学生との交流も盛んに行われています。
さらに、英語で行われる留学生向けの日本文化・歴史・経済・経営等の授業も履修可能であり、他国から来た留学生や日本人学生と共に授業を受けることができます。

授業以外においても、東京六大学野球観戦、茶道体験、三曲体験、歌舞伎鑑賞教室など、数多くの日本文化体験の機会を設けており、それらのイベントについても留学生だけではなく、留学生との交流に関心が高い日本人学生も多く参加しています。

③ 受入定員
4名（大使館推薦 2名、大学推薦 2名）

④ 受講希望者の資格、条件等
1.在籍大学において、日本語・日本文化に関する分野を主専攻として専攻とし、日本語を少なくとも1年以上学んでいること。
2.英語での授業の履修を希望する場合で英語が母語ではない学生はIELTS6.0、TOEFL-iBT76点または同等レベルの英語力を持っていることが望ましい。

⑤ 達成目標
日本文化・社会について日本語もしくは英語での授業や文化体験を通じて深く理解するとともに、日本語で資料を読み、レポートを書き、プレゼンテーションできるように日本語運用能力を高めることを目標としています。

⑥ 研修期間（在籍期間）
研修期間：2022年9月中旬　～ 2023年8月下旬
（在籍期間：2022年9月16日～2023年9月15日）

⑦ 奨学金支給期間
2022年10月　～　2023年8月（11ヵ月）

⑧ 研修・年間スケジュール
9月上旬：渡日
9月中旬：秋学期開始
オリエンテーション
交換留学生歓迎パーティー
Buddyマッチング
10月：　東京六大学野球観戦
11月：　学園祭
12月：　国際交流懇親会
冬季休暇
1月：　秋学期定期試験
学期末パーティー
2月：　春季休暇
4月：　春学期開始
5月：　東京六大学野球観戦
6月：　日本語スピーチコンテスト
7月：　春学期定期試験
学期末パーティー
8月下旬：サマーセッション
報告会および修了式
帰国

⑨ コースの修了要件
各学期6科目以上の履修を必須としており、内日本語科目は各学期につき3～5科目程度を履修する必要があります。また、1年後の報告会には必ず参加して頂き、1年間の学習成果とそれを活かした今後の進路や予定を発表して頂きます。1年間で12科目以上の単位を修得すると修了要件を満たすことになり、修了証を授与します。同時に、成績証明書も発行しますので、在籍大学での単位認定に活用することができます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色
１）研修・コース科目の特徴
レベル1～レベル7の日本語科目の中で、学生自身のレベルに所属する日本語科目を履修することができます。高い日本語能力を持つ留学生については、日系企業就職や日本の大学院進学に備える上級科目も用意されており、15学部15研究科3ｲﾝｽﾃｨﾁｭｰﾄの幅広い分野の専攻から、様々な視点で日本の文化・社会に関する授業を履修することができます。

２）研修・コース開設科目
必修科目はありませんが、各学期6科目の履修が必要になります。日本語科目は各学期につき3～5科目程度の履修をする必要があり、代表的には以下のような科目があります。
　ビジネス日本語・・ビジネス敬語の基礎
　能力試験対策N1・・日本語能力試験N1を目指す
　日本の社会と文化・・日本の伝統文化を体験
　日本社会とメディア・・作品を通じた討論
　アカデミック日本語・・大学院進学対策

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
「フィールドワーク・課題研究」では、社会調査の基礎を学んだ上で、文献学習でテーマを設定し、日本文化・社会に関するフィールドワークを行います。また、留学生向けの授業では、企業や工場の見学を行っており、日本の産業をより身近に感じられる機会を与えています。これらの授業は、日本人学生と外国人留学生が協働して行う体験型授業であり、様々な異文化交流ができることが魅力です。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
文学、歴史、経営、地域、若者など様々な視点で、日本の文化・社会に関する授業（「地域文化論」「日本の文化と社会」）では、日本人学生とのグループディスカッション、ディベート等が行われます。
日本語授業では、日本人学生をボランティアとして授業のサポートを行っており、対話を通じより実践に近い環境を提供しております。

⑪ 指導体制

1）責任教員
　ESOPディレクター
　Gregory Khezrnejat(グローバル教養学部教授)

2）事務責任者
　一ノ瀬　美登里(グローバル教育センター　事務部長)
海外経験が豊富な教員・事務職員が連携し、学生の教学面・生活面でのサポートを英語と日本語にて行っています。

■宿　舎
大学から40～60分程度の通学圏内に宿舎があり、本プログラムによる留学生は日曜・祝日を除く月曜日から土曜日まで朝食と夕食付の個室で年間494,400円（1ヶ月41,200円）（2022年10月現在）で入居することが可能です。支払は学期単位で一括前支払いであり、海外送金のみ受け付けております。部屋はエアコン・ベッド・机・電気スタンド付の個室で、バス・トイレは共同です。洗濯機、アイロン、掃除機は無料で使用することが出来ます。寮費は半年ごとの支払いにはっており、渡日前に半年分の前納が必要になりますのでご留意ください。

■修了生へのフォローアップ
法政大学では2014年に初めて日本語・日本文化研修留学生の受入れを行いましたが、ESOPでの交換留学生の受入れ実績は20年以上の歴史があり、過去に在籍した留学生にはその後、本学の大学院に進学したり、また母国の外交官になった人もいます。そのため、帰国後にも進学や就職についての相談や、必要となる証明書の発行などのサポートも充実しています。

■問合せ先

＜担当部署＞
法政大学グローバル教育センター事務部

住所：〒102-8160
　　東京都千代田区富士見2-17-1

TEL：　＋81-3-3264-9315（直通）
FAX：　＋81-3-3264-4624
Email：ic@hosei.ac.jp

＜ウェブサイト＞
法政大学ホームページ
https://www.hosei.ac.jp/
法政大学グローバル教育センターホームページ
https://www.global.hosei.ac.jp/
法政大学ESOPホームページ
https://www.global.hosei.ac.jp/en/programs/exchange/

早稲田大学（東京都）

自分の興味・レベルに合わせて総合的に日本語を学ぶことができる

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

早稲田大学は、大隈重信侯によって、近代日本の人材育成を目的として1882年に創立されました。創立当時は東京専門学校と称し、1902年に早稲田大学となりました。
早稲田大学は創立以来、「学問の独立」「実用の教育」「模範的国民の養成」を教育方針とし、その教育方針は現在も早稲田大学の教育と研究の根本をなしています。2017年10月に創立135周年を迎えた早稲田大学は、現在、13学部、大学院22研究科、附属機関等から成り立っています。専任教職員約1,900人(2022年9月時点)、学生約50,000人（2022年5月時点）が所属しており、その歴史と伝統、教育・研究の水準の高さ、卒業生の活躍などから、日本で有数の私立大学として評価されています。留学生の受け入れについても、古くから積極的に推進し、毎年、多くの留学生を受け入れており、現在では約3,400人（2022年5月時点）の外国人学生が学んでいます。

学部・研究科
学部：
政治経済学部、法学部、文化構想学部、文学部、教育学部、商学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部、社会科学部、人間科学部、スポーツ科学部、国際教養学部

大学院：
政治学研究科、経済学研究科、法学研究科、文学研究科、教育学研究科、商学研究科、基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科、情報生産システム研究科、社会科学研究科、人間科学研究科、スポーツ科学研究科、国際コミュニケーション研究科、アジア太平洋研究科、日本語教育研究科、
政治学研究科（公共経営大学院）、法務研究科（法科大学院）、会計研究科（会計大学院）、教育学研究科（教職大学院）、経営管理研究科（ビジネススクール）

② 国際交流の実績

大学間協定数　587（2022年6月時点）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数3,456人、
日本語・日本文化研修留学生（大使館推薦）10人
（大学推薦）9人
2021年：留学生数3,252人、
日本語・日本文化研修留学生（大使館推薦）9人
（大学推薦）10人
2020年：留学生数5,668人、
日本語・日本文化研修留学生（大使館推薦）5人
（大学推薦）6人

④ 地域の特色

駅周辺や早稲田通り沿道は商業の拠点であり、活力のある街です。また、古くから学生の街としての歴史があり、若者が多く集まります。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語教育プログラムは、早稲田大学日本語教育研究センターによって設置・運営されている1年間または半年間の日本語集中学習プログラムです。
様々なニーズを持つ個々の学生の自己実現を可能とするために、ゼロスターターから超上級レベルまでの日本語科目をそろえ（1レベル～8レベル）、総合的に「日本語」の基礎的な能力向上を目指す科目や「日本文化」や「日本社会」等に関する科目、本学学部で提供される教養科目等の中から、学生が自らの学習目的や目標に応じて自由にカリキュラムをデザインできるようになっています。
本プログラムでは「日本語学習ポートフォリオ」を導入して、学生自身が自分自身の日本語学習を管理し、振り返りも行います。
また、留学生一人ひとりの日本語学習の目的に応じて個人ごとの学習計画の立案・実施・検証を支援する「わせだ日本語サポート」と連携した支援体制を整えています。

③ 受入定員

年度により異なるが、例年20名程度
（大使館推薦10名、大学推薦10名）

④ 受講希望者の資格、条件等

1. 早稲田大学と協定のある大学・大学院に在籍している者で、留学終了まで本属大学に在籍すること。（大学推薦のみ）
2. 成績優秀な者。日本語科目だけでなく、他科目の成績も選考の際に考慮される。
3. 日本語学習への意欲が高い者。

⑤ 達成目標

修了単位である26単位を修得すること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月上旬　～　2024年8月上旬
（2023年9月21日　～　2024年9月15日）
●オリエンテーションは入学前の9月中旬に予定
●修了パーティは7月下旬予定
●授業終了は7月下旬（補講期間を除く）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月　～　2024年7月

⑧ 研修・年間スケジュール

授業以外にも、もちつき大会や各種イベントに参加することで、日本の社会や文化についての理解を深めることができます。
本学の学生交流プログラムを企画・運営しているＩＣＣ（異文化交流センター）の主催する活動に参加したり、早稲田大学の学生サークル等に参加して、日本人学生や地域の人々と交流し、日本での学生生活を満喫してください。

9月上旬：	渡日
9月：	オリエンテーション
11月：	早稲田祭（文化祭）
12月：	もちつき大会
7月：	修了パーティー
8月上旬：	帰国

※行事内容、時期は変更される場合があります。

ＩＣＣ（異文化交流センター）
https:www.waseda.jp/inst/icc/

⑨ コースの修了要件

年間26単位（原則として各学期13単位）以上の日本語科目を履修し、合格の成績を取得した者を修了者とみなし、修了証書を授与します。成績証明書については、申し込みをした方に発行します。

単位認定が必要な場合は、予めご自身で所属大学に確認してください。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴
日本語教育研究センターの日本語授業には、総合日本語、テーマ科目、オープン科目があります。また、科目は初級の1レベルから超上級の8レベルまであり、自分の興味やレベルに合わせて日本語を学ぶことができます。

・年間26単位（半期13単位）修得できるように自分で時間割を組みます。

・各科目は週あたりの授業回数によって与えられる単位数が異なります。なお、授業は各学期14週行われます。

・日本語教育研究センター設置科目は、原則として週1回100分の授業で1単位が与えられます。

・授業は全て日本語で行われます。

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目
・内容
必須科目はありません。必要単位数を修得できるように自分で時間割を組みます。
Ⅱ）選択科目（13コマ、21.7時間/1週あたり）
・内容
総合科目群もしくは、テーマ科目群から修了要件を満たすよう年間26単位（半期13単位）修得できるよう選択することが可能です。

総合科目群

テーマ科目群

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・日本社会や文化についての理解を深めるため、学内外の施設を訪問、見学する科目もあります（テーマ科目）。また、本学の学生が日本語授業ボランティアとして活躍しているクラスも多数あり、授業の中でも本学学生と交流することができます。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・日本人学生が日本語学習ボランティアとして、いくつかの日本語科目において、留学生の日本語学習をサポートします。

・希望者は日本人学生を対象としている他学部で開講されている授業を履修することもできます。（制限あり）

⑪ 指導体制

【所長】
池上　摩希子　　教授
【教務主任】
久保田　美子　　教授
寅丸　真澄　　准教授

教授（任期付）	1名
准教授	2名
准教授（任期付）	5名
講師（任期付）	4名
非常勤講師	53名
インストラクター(非常勤)	116名

■宿　舎

（大使館推薦）
大学を通じ寮を紹介します（渡日前の宿舎費の支払あり。入館費用として約200,000円、海外送金にて必要）

（大学推薦）
早稲田大学留学生寮を紹介します（渡日前の宿舎費の支払なし。ただし、留学生寮以外の宿舎を選択する場合、渡日前の宿舎費の支払あり）。

■修了生へのフォローアップ

日本語教育プログラム修了後の進路
・母国等（日本以外の国）の在籍大学に戻る
・母国等（日本以外の国）で就職
・日本の大学・大学院に進学
・日本で就職

就職活動において、本学のキャリアセンターを利用することができます。

■その他

VRキャンパスツアー

https://www.waseda.jp/top/about/work/campus-tours

WHY WASEDA?

https://www.waseda.jp/inst/whywaseda/

■問合せ先

早稲田大学　日本語教育研究センター
住所：〒169-8050
東京都新宿区西早稲田１－７－１４
TEL: 03-3208-0477
FAX: 03-3203-7672
E-mail: cjl-ao@list.waseda.jp
URL: https://www.waseda.jp/inst/cjl/

早稲田大学留学センターホームページ
URL: https://www.waseda.jp/inst/cie/

創価大学（東京都）

Discover your potential –創価大学で「自分力」を発見し、世界平和と新しき文化の創造の担い手として、巣立ちゆくことを心から願っています！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

創価大学は、世界の平和と人類の幸福を実現するために活動する池田大作博士によって、
「人間教育の最高学府たれ」
「新しき大文化建設の揺籃たれ」
「人類の平和を守るフォートレスたれ」
との建学の精神を掲げ、1971年に創立された。
以来、創価大学は「学生第一の大学」を基本理念として、充実した教育課程とサポート体制を整えている。特に国際交流を重視し、留学生用の奨学金や宿舎は充実しており、61カ国・地域から多数の留学生が集っている。
学部では経済学部、経営学部、法学部、文学部、教育学部、理工学部、看護学部に加え、2014年度には新たに国際教養学部が開設された。また大学院では、経済学研究科、法学研究科、文学研究科、教育学研究科、工学研究科、法科大学院、教職大学院を擁する総合大学として国際性も豊かに最高レベルの教育を提供している。平和のために貢献できる人材の輩出を目指してきた創価大学は、既に多くの卒業生が世界各国で活躍している。

学部生　：6505 名
大学院生：　390 名
専任教員：　363 名
学部数　：　8学部（経済、経営、法、文、教育、理工、看護、国際教養）
大学院　：　6研究科（経済、法、文、国際平和、教育、理工）
専門職大学院：法科大学院、教職大学院
※統計は2022年5月1日現在

② 国際交流の実績

交流協定大学数：65カ国・地域、235大学（2022年9月現在）
留学生数：502名（2022年5月1日現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数 502人、日研生 9人
2021年：留学生数 656人、日研生 6人
2020年：留学生数 597人、日研生 0人

④ 地域の特色

八王子市は20以上の大学等が集まる学園都市である。自然が豊かな街としても有名で、市内の「高尾山」はミシュランガイドにも紹介され、世界中から多くの観光客が訪れている。歴史的にも古くから発展した八王子は戦国時代には「滝山城」「八王子城」などを舞台に多くの合戦が行われた。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

初級前期、初級後期、初中級、中級前期、中級後期、上級の6段階のコースがあり、学生は自分の日本語能力に合った科目を履修することができる。また、英語で授業が行われる科目の履修を主目的とする学生が日本で生活する上で必要な日本語を学ぶ「日本語基礎」、非漢字圏学生のための「初級漢字」、大学院受験・進学準備のための「日本語Ⅴ・Ⅵ」を設けている。日本語のほか、日本の伝統文化も学ぶことができる。

③ 受入定員

大使館推薦10名、大学推薦10名

④ 受講希望者の資格、条件等

〇外国において大学等の高等教育課程に在籍した経験を持っている者

〇以下いずれかの資格を持っている者

・日本語能力試験N5レベル以上を持つ者

・TOEFL iBT71点以上の英語能力を持つ者

・英語を母語として使用している者

⑤ 達成目標

初級前期：初歩的な日本語（文法・漢字・語彙）を習得し、簡単な会話、平易な文の読み書きができる。JLPT（日本語能力試験）N5合格レベルを目指す。

初級後期：基本的な日本語を習得し、日常の会話、簡単な文の読み書きができる。JLPT（日本語能力試験）N4合格レベルを目指す。

初中級：初級の日本語を十分に習得し、自然な日常会話、書き下ろした文の読み書きができる。JLPT（日本語能力試験）N3合格レベルを目指す。

中級前期：やや高度の日本語を習得し、一般的な事柄についての会話、読み書きができる。JLPT（日本語能力試験）N2合格レベルを目指す。

中級後期：社会生活上、あるいは大学教育を受けるのに必要な日本語能力を身につける。JLPT（日本語能力試験）N1合格レベルを目指す。

上級：大学教育、あるいは大学院教育を受けるのに十分な日本語能力を身につける。JLPT（日本語能力試験）N1高得点を目指す。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月上旬　～ 2024年7月下旬

（在籍期間：2023年9月1日～2024年7月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年9月　～　2024年7月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月上旬：渡日、秋学期オリエンテーション

9月中旬：秋学期授業開始

10月上旬：大学祭

11月頃：　留学生研修旅行

12月下旬：年内授業終了

1月上旬：留学生新年会

1月中旬：秋学期授業終了、期末定期試験

1月下旬：学年末休業

4月上旬：春学期オリエンテーション
授業開始

6月頃：　留学生研修旅行

7月下旬：春学期授業終了、期末ガイダンス
期末定期試験、春学期修了式
帰国

※2023年度よりターム制が導入されるため、スケジュールが若干変わる可能性がある

⑨ コースの修了要件

創価大学の授業は、各学期とも15週間＋試験で単位を認定する。

日本語科目：

週90分（1コマ）×15週 で2単位

講義・演習：

週90分（1コマ）×15週 で2単位

一週間に7コマ以上履修し、単位が認定された学生には、受講証書と成績証明書を発行する。もし在籍期間証明書や修了証明書が必要な場合は国際課に申請すること。成績証明書の発行時期は以下の通り。秋学期の成績は、学期修了後2月上旬に発行予定。春学期の成績は、学期修了後8月上旬に発行予定。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1）研修・コース科目の特徴

各レベルごとに右表の日本語科目が設置されている。

クラス	科目	単位	コマ	時間
ES	日本語基礎	6	3	67.5時間
E0 初級前期	日本語総合入門	10	5	112.5時間
	日本語演習入門	2	1	22.5時間
	日本語聴解入門	2	1	22.5時間
	日本語文章表現入門	2	1	22.5時間
	日本語口語表現入門	2	1	22.5時間
	初級漢字	2	1	22.5時間
E1 初級後期	日本語総合Ⅰ	10	5	112.5時間
	日本語演習Ⅰ	2	1	22.5時間
	日本語聴解Ⅰ	2	1	22.5時間
	日本語文章表現Ⅰ	2	1	22.5時間
	日本語口頭表現Ⅰ	2	1	22.5時間
E2 初中級	日本語文法Ⅱ	2	1	22.5時間
	日本語文章表現Ⅱ	2	1	22.5時間
	日本語読解ⅡA	2	1	22.5時間
	日本語読解ⅡB	2	1	22.5時間
	日本語聴解ⅡA	2	1	22.5時間
	日本語聴解ⅡB	2	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅡA	2	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅡB	2	1	22.5時間
E3 中級前期	日本語文法Ⅲ	2	1	22.5時間
	日本語文章表現Ⅲ	2	1	22.5時間
	日本語読解ⅢA	2	1	22.5時間
	日本語読解ⅢB	2	1	22.5時間
	日本語聴解ⅢA	2	1	22.5時間
	日本語聴解ⅢB	2	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅢA	2	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅢB	2	1	22.5時間
E4 中級後期	日本語文法Ⅳ	2	1	22.5時間
	日本語文章表現Ⅳ	2	1	22.5時間
	日本語読解ⅣA	2	1	22.5時間
	日本語読解ⅣB	2	1	22.5時間
	日本語聴解ⅣA	2	1	22.5時間
	日本語聴解ⅣB	2	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅣA	2	1	22.5時間
	日本語口頭表現ⅣB	2	1	22.5時間
E5 上級	日本語読解ⅤA	2	1	22.5時間
	日本語読解ⅤB	2	1	22.5時間
	日本語聴解ⅤA	2	1	22.5時間
	日本語聴解ⅤB	2	1	22.5時間
	日本語表現ⅤA	2	1	22.5時間
	日本語表現ⅤB	2	1	22.5時間
E5 学部	日本語Ⅲ	2	1	22.5時間
	日本語Ⅳ	2	1	22.5時間
	日本語Ⅴ	2	1	22.5時間
	日本語Ⅵ	2	1	22.5時間
共通	日本伝統文化	2	1	22.5時間

2）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目（〇コマ数、時間数）・内容
表の日本語科目（クラスにより異なる）

Ⅱ）選択科目（〇コマ数、時間数）・内容
科目一覧から日本語以外の科目を選択し、履修することができる。

必修科目と選択科目を足して週に7限以上履修すること。

3）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・創価学園（小学校、中学校、高等学校）にて、交流授業を実施している。（各学期1回）
・八王子市の小中学校でボランティアの交流授業を実施している。（不定期）

ただし、コロナウィルス感染予防対策により実施可否は未定。

4）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

協同学習方式の授業については下記URLでシラバスを検索のこと。
https://plas.soka.ac.jp/csp/plas/syllabus11.csp

⑪ 指導体制

日本語・日本文化教育センターの教員が担当する。

日高　吉隆　准教授（センター長）
岡松　龍一　准教授
倉光　雅己　准教授
法貴　寿子　准教授
佐久川利奈　助教
中後　幸恵　助教

■宿　舎

本学の留学生寮に入寮すること。
寮以外の居住は不可。
宿舎費は以下の通り。渡日前に請求書を送付するので前納のこと。
支払方法は1学期ごとの分割払い、2学期分を一括払いの2種類のみでクレジットカード決済。支払いの上限設定でクレジットカード決済ができない場合は海外送金も対応可能。

男子寮	入寮費	舎費（1学期分）	舎費（2学期分）
宝友寮	50,000	184,000	368,000
滝山国際寮	50,000	224,000	448,000

女子寮	入寮費	舎費（1学期分）	舎費（2学期分）
秋桜寮	50,000	198,000	396,000
サンフラワーホール	50,000	208,000	416,000
万葉国際寮	50,000	224,000	448,000
創春寮	50,000	189,000	378,000
友光寮	50,000	194,000	388,000

・入寮費は最初の学期に舎費と一緒に支払う
・舎費には水道光熱費が含まれる
・食費は自己負担

主な設備：
大浴場、トイレ、食堂、台所（電子レンジ、冷蔵庫）、集会室、ラウンジ、和室、洗濯機・乾燥機

居室備品：
ベッド、寝具一式、洋服掛け、整理タンス、机、イス、本棚

留学生寮案内ページ
https://www.soka.ac.jp/admissions/exam-info/department/foreign-info/dormitories/

■修了生へのフォローアップ

本学留学生の同窓会組織「留宝会」に所属することができる。

■問合せ先

（担当部署）
創価大学　国際部国際課
住所　〒192-8577
東京都八王子市丹木町1-236
TEL　+81-42-691-8230
FAX　+81-42-691-9456
E-mail　intloff@soka.ac.jp

創価大学ホームページ
https://www.soka.ac.jp/

創価大学　外国人留学生の受け入れ
https://www.soka.ac.jp/en/admissions/

日本語・日本文化教育センター
https://www.soka.ac.jp/global/global-approach/japan-studies-center

南山大学（愛知県）

高度な日本語能力を身に付け日本社会への理解を深めるプログラム

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1)特色と歴史

南山大学は1946年に設立され、8学部18学科、大学院6研究科14専攻(うち、1専攻は専門職大学院)の他、3研究所、9研究センターをもつ総合大学である。

中部地方唯一の男女共学カトリック校であり、「人間の尊厳のために」を教育のモットーとし、世界から選ばれる大学、世界に人材を輩出できる大学を目指した教育を行っている。

（2022年5月1日現在）

2)教員・学生数等

〇専任教員数 348名　　非常勤講師数 410名

〇学部･学生数等

学生数 9,269名

（内訳：学部生 9,075名 大学院生 194名）

うち、外国人留学生数 161名

（内訳：学部生 137名 大学院生 24名）

外国人留学生別科生 41名

〇学部・大学院研究科

学　部：人文学部・外国語学部・経済学部
経営学部・法学部・総合政策学部
理工学部・国際教養学部

大学院：人間文化研究科・国際地域文化研究科
社会科学研究科・法学研究科
理工学研究科・法務研究科

② 国際交流の実績

海外協定校数 117校＋3団体（2021年度）

派遣交換留学生数　70名　（2021年度）

受入交換留学生数　25名　（2022春学期）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数 161人
外国人留学生別科生数 41名
日研生 4人

2021年：留学生数 165人
外国人留学生別科生数 45名
日研生 4人

2020年：留学生数 150人
外国人留学生別科生数 110名
日研生 1名

④ 地域の特色

[1] 東京や大阪、京都など日本の主要都市へ行くのに便利。

[2] 日本で4番目に人口の多い都市だが、東京や大阪比べ生活費が安い。

[3] 都会にいながら窮屈ではなく、文化的施設や娯楽を楽しむことができる。

[4] 自然に囲まれ、少し足を伸ばせば、すぐに海や山を見られる。

[5] 自動車や航空産業など世界を代表する企業が集積。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

コース名：外国人留学生別科
（Center for Japanese Studies）

コースの特色：

[1]日本語コースでは、6段階(Ⅰ-Ⅵ)のレベル別コースを用意し、各学生の日本語能力にあった学習が可能で、読む･書く･聴く･話すの4技能の各習熟度の違いにも対応する。

[2]将来のキャリア形成に役立つ各種日本語セミナー、日本の文化･社会等について英語による講義科目を設置し、単に日本語を学ぶということに留まらず、将来、研究や仕事に必要とされる日本語能力の向上や日本に対する理解を深めることをねらいとする。

[3]書道や華道等芸術科目を通じて「日本」についての基礎的･専門的知識の習得を目指す。

[4] その他

各種フィールドトリップへの参加や交流スペースである多文化交流ラウンジ、学生TAによる日本語学習サポート（ジャパンプラザ）の利用により、日本語を使って交流を図りながら、授業以外の大学生活の中で、日本を学ぶことも重視している。

③ 受入定員

120名（大使館推薦5名、大学推薦1名、他私費留学生）

④ 受講希望者の資格、条件等

(i) 日本語･日本文化に関係する分野を専攻する者、または他の専攻分野でも日本語履修に意欲のある者。

(ii) 4.0 評価において 3.0 以上の GPA を修めた者または同等の者。

⑤ 達成目標

高い日本語運用能力を備えると同時に日本文化を深く理解するため。

⑥ 研修期間 （在籍期間）

研修期間: 2023年9月中旬 ～ 2024年5月下旬
（在籍期間: 2023年9月1日 ～ 2024年5月22日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年9月 ～ 2024年5月

⑧ 研修・年間スケジュール

〈秋学期〉

9月上旬： 渡日
9月： 入学式、オリエンテーション
クラス分けテスト
ウェルカムパーティー
10月： フィールドトリップ※
11月： 大学祭、フィールドトリップ※
CJSフェスタ
12月： 期末試験

〈春学期〉

1月： オリエンテーション
クラス分けテスト
ウェルカムパーティー
フィールドトリップ※
2月： フィールドトリップ※
3月： フィールドトリップ※
4月： フィールドトリップ※
5月： 期末試験
修了式・修了パーティー
5月下旬： 帰国

※フィールドトリップ：
学部学生との交流バス旅行等を実施する。

⑨ コースの修了要件

原則として、1学期に日本語科目8単位を含む14単位から18単位を履修する。

修了には以下の条件を満たす必要がある。

「連続して在学する2学期間において、日本語科目（選択必修科目）を含めた通算28単位以上を取得すること」

修了者には5月下旬に実施される修了式にて修了証書を授与する。履修科目について出席状況、課題提出状況および試験の結果を総合的に判断の上、成績を判定し、単位を付与する。
成績証明書の発行を希望する場合は別途、国際センター事務室に申し込む。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1）研修・コース科目の特徴

本学外国人留学生別科では、5つのカテゴリー（日本語科目、日本語セミナー科目、日本事情科目、オープンコース、芸術科目）において、様々な科目を提供している。
日本語科目および日本語セミナー科目は日本語レベル毎に分かれ集中的に学び、日本事情科目やオープン科目は学部学生との共修の機会も提供している。

2）研修・コース開設科目

		単位数	時間数※
[1]日本語科目	選択必修	8	800
[2]日本語セミナー科目	選択	2	100
[3]日本事情科目	選択	3	150
[4]芸術科目	選択	2	100
[5]オープンコース	選択	2	100

※時間数は1週間あたりの講義時間数（単位：分）

Ⅰ）選択必修科目

[1]日本語科目

学期初めに実施されるクラス分けテストの結果で下記のⅠ～Ⅵレベルのいずれかに配置され、レベルに応じた指導をおこなう。

日本語Ⅰ：日本語の重要基礎文法を定着させる。4技能をバランスよく伸ばし、日常生活の諸場面でも対応できる力を身につける。

日本語Ⅱ：日本語の基礎力を更に向上させ、長文読解も導入する。

日本語Ⅲ：上級の日本語コースへの準備。生教材の読解･論理的な文章の作成･討論等も行う。

日本語Ⅳ：語彙や表現力を伸ばし、更なる日本語4技能の充実を目指す。

日本語Ⅴ：日本語4技能の完成に加え、目的別の高度な日本語を身につける。専門書の読解、小論文作成なども行う。

日本語Ⅵ：日本語Ⅴを終えた学生のためのクラス。学生の主専攻分野を含む様々な学術領域の読み物を教材とし討論を行う。

Ⅱ）選択科目

[2]日本語セミナー科目

日本語で授業が行われる。初級・中級翻訳､講読（科学技術）、講読（社会科学）、ボランティアのための日本語、創作作文、ビジネス日本語、旅行業日本語、講読（日本文学）、古文、外国語としての日本語教授法入門、学術日本語作文、大学進学準備日本語 など

[3]日本事情科目

英語により講義が行われる。日本の文学、日本の文化、日本のポップカルチャー、日本文化と芸術、日本の宗教、日本の歴史、日本の社会、日本の経済、日本の経営、日本の政治、日本の外交など

（一部、学部学生との共修可能科目あり）

[4]芸術科目

華道・書道・茶道・踊り・漫画・武術

[5]オープンコース

学部生に開講されている科目の一部を学部生とともに別科生も受講することができる。

過去に開講された科目例：

・Academic Studies C
[Japan seen from the Outside]

3）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

社会で通用する日本語を実践するため、履修者のうち数名を対象に職業体験プログラムを行う。また、フィールドワークリサーチやボランティアリングの授業も開講する。

4）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本事情科目の一部は学部生も履修可能となっている。また、オープンコースは学部生に開講されている科目を留学生別科に所属する学生が履修することができ、日本人学生との共修が可能。
日本の歴史、社会、経営、外交等幅広い分野で学部に所属する日本人学生と日本に関する教養科目を学習することができる。

⑪ 指導体制

日本語科目は留学生別科に所属する専任・非常勤講師が専門的な指導をおこなう。日本語科目担当教員は学生の出席、課題提出などをみながら日本語学習をきめ細かくサポートをおこなう。また、学生1名につき1名の指導教員が配置され、日常生活等の相談に応じる。

各科目担当の指導責任者（教員）：

※2022年10月1日現在

担当	氏名
日本語科目・ 日本語セミナー科目担当	六川 雅彦
日本事情科目・芸術科目・ オープン科目担当	ロバート・クロッカー

留学生別科の授業運営や学生生活サポートは国際センターがおこなう。

国際センター責任者（教員）：

※2022年10月1日現在

役職名・担当	氏名
国際センター長	山岸　敬和
国際センター副センター長 （留学生教学担当）	ロバート・クロッカー
学生生活担当	マーク・ブレマー

■宿　舎

①ヤンセン国際寮（大学寮）
大学に隣接し、日本人学生と共同生活を行う国際学生宿舎。
グローバル人材としての教養とスキルを身につける「教育プログラム」も提供。
月額：60,000円
（教育プログラム費　別途 月額 1,000円）
②フォワイエ南山（大学寮）
外国人学生を対象としたワンルーム型宿舎。
月額　60,000円
（入居費 別途 25,000円）

〇過去3年間の日本語・日研生の宿舎入居状況
2022年度受入4名 ： ヤンセン国際寮（4名）
2021年度受入4名 ：名古屋交流会館（3名）
山里交流会館　（1名）
2020年度受入1名 ： 山里交流会館　（1名）

■修了生へのフォローアップ

留学生同窓会Facebookで情報発信を行い、
年に2回ニュースレターをWebページで発行する。

■問合せ先

＜担当部署＞
南山大学国際センター事務室

住所：　〒466-8673
愛知県名古屋市山里町18
TEL：　+81-52-832-3123（直通）
FAX：　+81-52-832-5490
Email：cjs-office@ic.nanzan-u.ac.jp
＜ウェブサイト＞
http://www.nanzan-u.ac.jp/

北陸大学 （石川県）

伝統文化が息づく古都「金沢」で、日本語力を身に付け、日本文化を学ぶ。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

北陸大学について

北陸大学は「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念に掲げ1975年に開学し、薬学部一学部からスタートしました。

現在は薬学部、医療保健学部、国際コミュニケーション学部、経済経営学部の４学部５学科を有しており、本学の使命・目的である「健康社会の実現」に向けた人材の養成を行っています。

1993年「国際交流センター」（国際交流室）を開設、1994年「留学生別科」を設置して以来、世界各国から留学生を受け入れています。

2014年には「北陸大学の国際化ビジョン」を策定し、大学の国際化・グローバル人材の養成について一層の発展を推進しています。

国際交流センターについて

国際交流センターは世界の大学とさまざまな交流を計画し、実施しています。現在、本学はアメリカ、イギリス、スペイン、ロシア、オーストラリア、モンゴル、タイ、インドネシア、マレーシア、カンボジア、中国、韓国の大学と協定を締結し、ニュージーランド、ドイツの大学とは友好校として北陸大学の学生を派遣したり、姉妹校からの学生を受け入れたりしています。

また、国際交流センターでは外国人を含むスタッフが、語学を勉強するときのアドバイスをしたり、海外の文化や生活情報、海外旅行や留学といった実践的なことの相談にも応じています。海外留学に関しては、北陸大学が主催するものだけでなく個人で行ける留学の情報も提供しています。

② 国際交流の実績

海外姉妹校・友好校等：61

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数　183人、日研生　6人（大使館推薦：5人、大学推薦：1人）
2021年：留学生数　241人　日研生　1人（大学推薦：1人）
2020年：留学生数　364人

④ 地域の特色

金沢市は石川県の県庁所在地であり、人口約46万人の地方都市です。武家文化の色濃く残る金沢は、公家文化の京都とは異なる風情を有しており、伝統と文化が息づいています。2015年には北陸新幹線が開通し、2020年10月には日本海側初の国立美術館である「国立工芸館」が開館するなど、今、日本で一番注目されている観光地の一つです。自然にも恵まれ、夏には海水浴、冬にはスキーができます。また、温泉地としても有名です。治安が良く物価も安いので生活しやすい都市です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修
日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的な日本事情・日本文化に関する研修を行うもの。

② 研修・コースの特色

留学生別科では、大学や大学院への進学を目指す留学生、日本語力の向上や日本体験を目的とする留学生を対象に、授業を行っています。日本語のレベル別にクラスが分かれていて、午前は日本語を総合的に学ぶ授業、午後は日本文化や日本語能力試験対策、大学院進学のための研究計画書等の授業を行っています。

③ 受入定員

10名（大使館推薦　5名、大学推薦　5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験Ｎ4相当以上の能力があることが望ましい。

⑤ 達成目標

・入学時の語学力に応じて、N3～N1相当の学力を修得する。
・日本の社会や文化に対する理解を深め、自分の言葉で説明できる。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月中旬～　2024年8月下旬
（在籍期間：2023年9月14日～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月　～　2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月	渡日（2022年は9月13日）
	秋学期入学式
	秋学期開講
10月	学園祭
11月	日本文化体験活動（秋季研修）
12月	日本語能力試験
	日本語コンテスト
	留学生別科懇親会
	冬休み
1月	秋学期期末試験
4月	春学期開講
5月	日本文化体験活動（春季研修）
6月	研修旅行
7月	日本語能力試験
	日本語朗読コンテスト
	春学期期末試験
	ビーチデー

■時間割例

	1時間目 (9:15～10:45)	2時間目 (11:00～12:30)	3時間目 (13:20～14:50)	4時間目 (15:05～16:35)
月	日本語Ⅵ（文章表現）	日本語Ⅶ（会話聴解）	文字語彙、資格日本語聴解	
火	日本語Ⅷ（総合演習）	日本事情演習Ⅱ	資格日本語文法	英語、専門ゼミ、研究計画書作成
水	日本語Ⅵ（文章表現）	日本語Ⅴ（文型読解）	日本事情	専門ゼミ（言語・文化）
木	日本語Ⅷ（総合演習）	日本語Ⅴ（文型読解）	文字語彙ⅡA、資格日本語聴解Ⅱ、資格日本語文法Ⅱ	専門ゼミ（経済経営）
金	日本語Ⅶ（会話聴解）	日本語Ⅴ（文型読解）	文字語彙、研究計画書作成	英語

〈地震体験車の体験学習〉

8月	修了式（8月上旬）
	帰国

⑨ コースの修了要件

研修期間１年で必修・選択科目を合せて30単位以上取得した留学生について、留学生別科修了証書及び成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴

一般の留学生別科生と同じ授業を受講します。授業はすべて日本語で行われ、入学時の日本語能力によってクラス分けをします。また、大学院進学を目指す人のために、研究計画書作成の指導も行います。

２）研修・コース開設科目

Ⅰ）必須科目

・日本語科目　9コマ、12,150分
読む・書く・話す・聞くの4技能をバランスよく学びます。また各種の試験対策の授業もします。
・日本事情　　1コマ、1,350分
日本の文化について勉強します。茶道や金箔工芸など体験型の授業も行う他、研修旅行にも行きます。

・日本事情演習　1コマ、1,350分
　日本で生活するうえで必要な各種手続の方法を説明したり、生活上の相談や話し合いをします。

Ⅱ）選択科目

・文字語彙／英語／研究計画書作成／資格日本語（N1試験対策）／専門科目　各科目90分／1週間
　漢字学習や語彙を増やしたい学生には「文字語彙」、大学院進学を目指す学生には「研究計画書」、N１を目指す学生には「資格日本語」等、目的や興味に応じた科目を用意しています。

３）研修科目で地域の見学や地域交流の参加出来る科目及びその具体的な内容

・日本事情　90分/1週間
　リサイクルセンター見学、湯涌温泉足湯体験と氷室見学、金箔工芸見学と体験、和菓子作り体験など。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・日本語Ⅶ(会話聴解)
　学部生の外国語クラスとの交流活動を行う。

⑪ 指導体制

　日研生は、国際交流センター・留学生別科の所属となります。国際交流センター所属の教員が指導教員として履修や研究の指導、日本での生活のサポートをします。

　胡　光輝　　教授
　佐々木　技好　准教授ほか

■宿　舎

　大学の寮または大学周辺のアパートを紹介します。また、石川県などが運営している留学生会館もあります。
　大学紹介のアパートの家賃は約25,000～30,000円／月です。また、入居時には、手続費として家賃の1か月分、敷金として40,000円が必要です。アパートの保証人には大学がなります。
　生活費は、家賃込みで約70,000／月かかります

■修了生へのフォローアップ

　FacebookにおいてHokuriku University Study Abroad Facebook Pageを公開しています。本プログラム参加者が随時写真を載せながら近況を報告。本プログラム参加者は当サイトに登録できるようにし、本プログラム終了後の様子をリアルタイムで確認できます。

■お問合せ先（日本語・英語・中国語対応可）

＜担当部署＞
北陸大学国際交流センター・留学生別科

住所：　〒920-1180
　　石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地

TEL：　+81-76-229-2626（直通）
FAX：　+81-76-229-0021
Email：iec@hokuriku-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
北陸大学留学生別科：
　www.hokuriku-u.ac.jp/department/jlc/index.html

北陸大学：
　http://www.hokuriku-u.ac.jp/

愛知淑徳大学（愛知県）

生きた日本語を学び、日本語で世界を広げよう

■大学紹介

① 大学の特色及び概要
愛知淑徳大学は1975年に女子大学として開学しました。大学創立20周年となる1995年には時代の変化・社会の多様性に応じるため、男女共学に移行し「違いを共に生きる」という理念のもと、男女の性差だけでなく、国籍の違いを越えて、外国人留学生や年齢や世代の異なる社会人を受け入れるようになりました。現在では、9学部5研究科、留学生別科を擁する総合大学に発展し、毎年9千人近い学生がともに学んでいます。

本学には、星が丘キャンパス（名古屋市）と長久手キャンパス（長久手市）の2キャンパスがあります。長久手キャンパス内には外国人留学生の宿舎として国際交流会館（通称：アイハウス）が設置されています。

留学生別科は星が丘キャンパスにて開講されています。

② 国際交流の実績
【留学生在籍数】25人（内留学生別科生17人）
【大学間交流協定校】20カ国・地域　49大学
※いずれも2022年10月1日現在

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績
2022年：留学生数（全学）43人、日研生3人
2021年：留学生数（全学）27人、日研生4人
2020年：留学生数（全学）30人、日研生0人
※留学生数は各年度在籍学生数のため、複数年度在籍している学生については重複がある。

④ 地域の特色
名古屋市は230万人を超える人口を擁し、大都市としての利便性を備えつつも東京や大阪ほどは混んでおらず、住みやすい都市です。日本の中央に位置しているため、東京、大阪、京都、奈良へも短時間で行くことができます。

留学生別科がある星が丘キャンパスは、名古屋市地下鉄東山線「星ヶ丘」駅徒歩3分とアクセスもよく、駅周辺には飲食店や商業施設も充実しています。名古屋駅、栄駅など名古屋市の中心部へも乗り換えをせずに行くことができて便利です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的
b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色
【コース名】留学生別科日本語コース
【コースの特色】
「生きた日本語」を学ぶための場として1992年に設立されました。少人数クラスで一人ひとりのニーズに可能な限り対応する授業を行っています。

授業にはレベルに応じた日本語を学ぶ日本語科目と、実践や体験を重視した日本文化科目があります。上級レベルの学生は、所定の学部科目の履修もあり、日本人学生と共に学ぶ機会が提供されています。

各レベルで「チュートリアル」と呼ばれる個人指導の時間があり、学生は担当教員から自分の日本語の弱いところを丁寧に教えてもらい、直していくことができます。

③ 受入定員
4名（大使館推薦3名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等
1）最低12年の正規の学校教育を修了し、大学入学資格すべてを満たしていること。または、これに準ずる資格を有することが必要です。
2）最終学歴校の成績が100点満点中、平均75点以上であること。または、GPA4.00のうち2.75以上を取得していることが望まれます。

⑤ 達成目標
達成目標はどのレベルで学習をはじめたかによって異なりますが、1学期が終わった時に必ず次のレベルに行ける日本語を身につけていることを目標としています。

【達成目標の目安】
・日本語Ⅱ修了時：JLPT N4合格
・日本語Ⅲ修了時：JLPT N3合格
・日本語Ⅳ修了時：JLPT N2合格
・日本語Ⅴ修了時：JLTP N1合格
・日本語Ⅵ修了時：大学学部・大学院授業を問題なく受講できる

⑥ 研修期間（在籍期間）
秋学期：2023年9月下旬～2024年1月下旬
（在籍期間：2023年9月1日～2024年3月31日）
春学期：2024年4月中旬～2024年8月上旬
（在籍期間：2024年4月1日～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間
2023年9月～2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール
【2023年秋学期】
・9月中旬　渡日、オリエンテーション
　　プレイスメントテスト
・9月下旬　授業開始
・12月　　冬季休業（12月下旬～1月上旬）
・1月　　秋学期授業終了、定期試験

【2024年春学期】
・4月　　春学期授業開始
・7月　　春学期授業終了
・8月　　定期試験
・8月下旬　帰国

⑨ コースの修了要件
以下の3条件を満たすと修了証書が与えられ、成績証明書も発行されます。早期終了は原則不可ですが、ご希望の場合はご相談ください。

①留学生別科に2学期在籍すること
②各学期に16単位以上を修得し、合計32単位以上を修得すること
③各学期に修得する単位には、日本語科目を8～16単位（レベルにより異なる）を含んでいること

⑩ 研修・コース科目の概要・特色
１）研修・コース科目の特徴
各クラス原則として、1週間に午前中4時間の会話や視聴解の授業、6時間の読解・作文の授業の合計10時間（日本語Ⅰ・Ⅱは12時間）と午後に90分の日本語演習があります。演習では、午前中に学習した日本語を使った様々なクラス・アクティビティを行います。

日本語Ⅰ～Ⅳのクラスでは、聴解練習の授業も設けられています。
カリキュラムの一部に学部科目を組み込み、日本人学生と共修できる機会を設定しています。

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目
日本語能力を高めることができるよう、少人数制をとっています。レベルに合わせて履修する授業・時間数は異なります。

総合	「話す、聞く、読む、書く」4技能の力を総合的に伸ばします。
聴解	レベルに応じた「聞く」力をつけます。
会話	様々な場面、トピックに合わせた「話す」力をつけます。
読解	様々なタイプの文章を読み、「読む」力をつけます。
作文	レベルに合わせて適切に「書く」力をつけます。
演習	スピーチ、ディスカッションの練習をします。
視聴解	日本の社会事情について動画で内容を理解し、それに対する意見をまとめ、発表する練習をします。

Ⅱ）選択科目
体験型の日本文化科目を実施しています。各科目1週間1回90分の授業です。

【華道（2単位）】
毎週その時季にあった花を生けることで、日本文化の理解に欠かせない季節感についても学ぶことができる授業です。

【書道（2単位）】
紙、筆、墨を使い、簡単な線の引き方、墨の濃淡、潤渇の基本を習います。ひらがな、漢字のはねやはらい、書き順等に注意をはらいながら書いていきます。

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
【CCCキズナプロジェクト（2単位）】
「まち」の活性化や地域社会が抱える課題に対して、実際にアクションを起こしていくプロジェクト型の授業です。行政や商店街、企業、NPOなどと連携して問題解決にチャレンジします。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
※クラスによって履修できる科目が違います。
【Japanese Popular Culture（2単位）】
海外で日本の文化がどのように、なぜ人気になっているのかを学びます。

【Japanese Performing Arts（2単位）】
日本の伝統芸能を外国人に説明できる力を身に付けます。

【日本語学1・2（2単位）】
日本語を言語学の手法で分析し、日本語の体系を学びます。

【ケーススタディ言語10（日本語）（2単位）】
日本語を日本語使用の実態に基づいて、自分で分析することを通してとらえ直します。

【コミュニケーション論1（2単位）】
生活におけるコミュニケーションの果たす役割の理解を深めます。

【観光文化2（観光交流論）（2単位）】
人が「観光」や「旅」に何を求めるかは、時代によって変化します。この授業では新しい観光地の事例を研究し、人々が旅に何を求めているのかを探ります。

⑪ 指導体制
日本語の授業は経験豊富な複数の教員がチームを組んで進めていきます。複数の教員が担当することで、多角的に日本語が習得できます。
また、演習では一人ひとりの習熟度や必要に応じた指導も行うことで日本語の力を伸ばすようにしています。

■宿　舎

【国際交流会館（通称：アイハウス）】
アイハウスは長久手キャンパスに設置された、学生寮を含む多目的施設です。1階にはセミナー室、和室、茶室、多目的ラウンジ、調理室があり、2・3階が留学生の生活する寮になっています。

アイハウスには管理人が常駐しているほか、日本人レジデントアシスタントも共に生活し、留学生のサポートにあたっています。

【居室】
留学生の居室はすべて単身室です。
〈面積〉12.86㎡
〈部屋数〉2階29室、3階24室
〈設備〉ベッド、机、椅子、デスクランプ、冷蔵庫、エアコン、収納棚、カーテン、インターネット回線

【共同施設】
寮生の共同施設として、キッチン、リビング、ダイニング、スタディルーム(3階のみ)、ミニラウンジ、シャワールーム、トイレ、ランドリー(洗濯機、乾燥機)、自動販売機があります。スタディルームには、共同で使えるノートパソコンとプリンターが設置され、リビングではWiFiの利用が可能です。

【周辺環境】
長久手キャンパス周辺には、スーパーマーケット、飲食店、衣料品店等があり、大変便利です。大学の正門からは名古屋市営バスが出ており、最寄りの地下鉄の駅まで15～20分、名古屋市中心部の栄までは地下鉄に乗り換えて30分で行くことができます。

【居室使用料】
保証金:(入居時のみ)40,000円
居室使用料:月額20,000円
維持管理費:月額5,000円
電気代:実費
清掃料:(退去時のみ)5,000円

【留学生サポート】
日本人学生ボランティアによる、留学生バディ制度があります。星が丘キャンパスにはグローバルラウンジと呼ばれる多言語・多文化交流ラウンジがあり、各種交流イベントが行われています。

■修了生へのフォローアップ

進学を希望する留学生に対して、教員、スタッフによる相談が受けられます。

【修了後の進路例（キャリアパス）】
・大学・大学院への進学
・帰国後　就職先企業にて日本語翻訳担当
・JETプログラム参加
・専門学校進学

■問合せ先

＜担当部署＞
愛知淑徳大学国際交流センター

住所：〒464-8671
愛知県名古屋市千種区桜が丘23

TEL：　+81-052-783-1590（直通）
FAX：　+81-052-783-1578
Email：goglobal@asu.aasa.ac.jp

＜ウェブサイト＞
愛知淑徳大学国際交流センター：
www.aasa.ac.jp/institution/international
愛知淑徳大学：
www.aasa.ac.jp

京都外国語大学（京都府）

歴史都市・京都で日本語と日本文化を学ぶ留学生のためのコース

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

PAX MUNDI PER LINGUAS －言語を通して世界の平和を－

本学が京都外国語学校として創立された1947年（昭和22年）5月、終戦後間もないこの当時に何よりも求められたものは世界の平和であり、その基盤としての国際的理解でした。そして、この国際的理解を図るための外国語をマスターし、その文化・経済・社会に熟知した人材の育成は急務でした。
本学の建学の精神である“PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）”には、世界平和達成への創立者の強い願いが込められており、創立以来、「不撓不屈」を教育・研究の基本精神としているのは、外国語を専攻する者にとって不断の努力が何よりも重要だからです。

② 国際交流の実績
40ヵ国　182大学（2022年10月現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

	留学生数	日研生 大使館推薦	日研生 大学推薦
2020年度*	53	―	―
2021年度	32	5	1
2022年度	122	10	1

*2020年度は、コロナウイルスのため受入なし。

④ 地域の特色
京都は日本の文化・伝統の中心地であるだけでなく、常に多くの旅行者や外国人留学生を受け入れ、国際会議などが開かれる国際的な都市です。日本文化の伝統的かつ近代的な要素を取り入れ、世界各国と強い繋がりを持ち、かつて首都であった京都は、世界の言語・文化を学ぶには最適の環境と言えるでしょう。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的：（ｂ）
このコースは、本学または他の日本の大学に入学を希望する外国人、国際交流協定大学が本学に派遣する留学生を対象に設けられた1年の課程で、これらの学生に対して「日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的な日本事情・日本文化に関する研修」を行います。

② 研修・コースの特色
世界の人々が憧れる京都で日本語と日本文化を学ぶ、留学生のためのコース。

世界各国から集まる留学生を対象に、9段階のレベルに応じたクラスできめ細やかな日本語指導を展開する留学生別科。
研修旅行や祇園祭見学などの多彩なイベントのほか、学内外での日本人学生との交流や、留学生同士の多文化交流も盛んに行われ、留学生たちは全身で日本を感じて楽しみながら、日本語能力の向上に励んでいます。

③ 受入定員
50名（大使館推薦10名、大学推薦1名を含む）

④ 受講希望者の資格、条件等

・外国籍を有し、18歳以上の者。
・外国において、学校教育における12年の課程を修了した者。
・上記の教育機関所在国の大学入学資格を有する者。
・日本語能力試験（JLPT）N5程度以上の日本語能力を保持している者。

⑤ 達成目標

・「聞く・話す・読む・書く」の4技能を通して、日本語を教授し、該当レベルの日本語知識、コミュニケーションの運用能力を高めること。
・併せて日本事情・日本文化に関する理解を深めさせること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月上旬～2024年8月初旬
（在籍期間：2023年9月20日～2024年9月19日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月　～　2024年7月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月上旬：渡日
　　オリエンテーション・プレイスメントテスト

9月20日：秋学期授業開始

10月　　：秋学期研修旅行・時代祭見学

11月　　：外大祭

12月　　：冬季休暇開始

1月　　：冬季休暇終了・秋学期授業終了

4月　　：オリエンテーション・プレイスメントテスト
　　春学期授業開始

5月　　：春学期研修旅行

7月中旬：祇園祭見学

7月下旬：春学期終了・修了式・帰国

⑨ コースの修了要件

・1年間に28単位以上（必修科目20単位、選択科目8単位以上）の修了要件を満たすこと。
・修了者には、9月下旬を目途に、修了証書および成績表を郵送します。成績証明書を発行する場合は、別途で料金（1通250円・郵送料）がかかります。

※なお、上記修了要件は2023年度から変更予定のため、確定後は下記URLをご確認下さい。
https://www.kufs.ac.jp/view/data/japanese_os/courseguide.pdf?211123

⑨ コースの修了要件

1）研修・コース科目の特徴
　※1ページ目「研修・コースの概要」に記載の通り

2）研修・コース開設科目
Ⅰ）必修科目・・・総合日本語

総合日本語（必修科目）のクラスは、プレイスメントテスト（4月・9月）の結果によって、9レベル10クラスにクラス分けを行います。この指示されたクラスのもとに、春学期10単位＋秋学期10単位、合計20単位（1学期あたりの授業時間数は1科目100分×14週。1科目1単位×20科目）を修得しなければなりません。

Ⅱ）選択科目（48コマ/週 実施）・内容
　※コマ数・開講科目は、年度によって異なります。

選択科目は、1学期につき、3科目4単位以上取得しなければいけません。
1. 文法・・・文法の授業を実施
2. 作文・・・作文の授業を実施
3. 漢字・・・漢字の授業を実施
4. 資格日本語・・・日本語能力試験対策
5. 日本の伝統文化・・・書道、茶道、華道等の実践 等

必修科目及び選択科目の詳細については、下記のURLより、2022年度WEBシラバス（2022年度＞管理部署「留学生別科」）をご参照ください。
https://www.kufs.ac.jp/news/detail.html?id=oXIFwbIL

3）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

①研修旅行（各学期1回実施）
授業日の1日を使い、施設見学・フィールドワークを通して日本文化研修を行います。

②京都三大祭（葵祭、祇園祭、時代祭）
伝統を誇る京都の三大祭のうち、祇園祭と時代祭を授業の一環として見学します。

4）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

〇特別日本語6（選択科目）
アニメやマンガを通して、日本文化や日本人の考え方を学びます。

〇その他日本人学生との交流について
・留学生アシスタント：
入寮時の宿舎案内および区役所手続き、生活環境案内のサポートをしてくれます。

・部活動：
留学生の皆さんも参加可能な部活がたくさんあります。
http://www.kufs.ac.jp/universitylife/extracurricularactivities.html

・国際部S.A.：
外大生との交流イベントや、留学生活のサポート・気軽に相談できる環境を提供しています。
https://www.kufs.ac.jp/interchange/support.html

・外国語自律学習支援室NINJA：
外大生との交流できるイベントやBuddy制度等、気軽にコミュニケーションができる環境を提供しています。
https://www.kufs.ac.jp/rcmme/ninja.html

⑪ 指導体制
各レベルに専任教員を担任として配置しており、修学上の疑問や学生生活の中で生じる諸々の問題についてきめ細やかな指導・助言をおこなっています。

■宿　舎

京都外国語大学が本学の寮またはアパートを手配します。
（部屋数に限りが有る為、割り当ては本学が決めます。）

すべての宿舎は家具付きのシングルルームです。
ホームステイの手配はしていません。

◎家賃のお支払い方法：クレジットカード

家賃は2回に分けて支払います。*月払いはできません。
1回目（秋学期分）の支払い→　渡日前（7月頃）
2回目（春学期分）の支払い→　渡日して半年後（3月頃）
（2022年度参考：1学期につき¥288,000～¥348,000程度）

■修了生へのフォローアップ

修了後のフォローアップとして、国際部担当職員と専任教員が、次のことを適宜行います。

1. 修了後の進路指導
2. 修了生に関する情報収集

■問合せ先

＜担当部署＞
京都外国語大学　国際部

住所：〒615-8558
京都府京都市右京区西院笠目町6

TEL　：+81-75-322-6043（直通）
FAX　：+81-75-322-6243
Email：incoming_oips@kufs.ac.jp

＜ウェブサイト＞
・京都外国語大学日研生：
https://www.kufs.ac.jp/view/data/japanese_os/courseguide.pdf?211123

・京都外国語大学 留学生別科（日・英・簡・繁）：
https://www.kufs.ac.jp/en/faculties/overseas/index_ja.html

同志社大学 （京都府）

知の国際化拠点・同志社大学 ー千年の都、京都で「志」を育むー

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

同志社大学のある京都は日本列島のほぼ中心に位置しています。794年、京都は日本の首都に定められ、東京が首都になるまで、約1100年間、日本の政治の中心であり、歴史・文化の中心でした。
古い史跡や町並み、文化などが数多く存在することから、日本で有数の国際観光文化都市として知られ国内外から多くの旅行者が訪れます。京都は伝統的な都市という魅力だけではなく、先端技術を持つ企業をはじめ、業界トップクラスの企業が集まるなど現在の日本の産業を支えている地域の一つでもあります。

［今出川キャンパス］

［京田辺キャンパス］

＜新島襄の教育理念＞

同志社大学の建学の精神は「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の三つの柱からなっています。1875年、同志社は日本で最初のキリスト教主義の学校として、新島襄によって創設されました。新島は世界のあらゆる青年が真理を求めて自由に生き生きと学び、語り合い、友情の絆を作り上げる場として同志社を位置づけました。その精神は今日においても本学に脈々と受け継がれ、現在の国際交流ネットワークを築いています。

② 国際交流の実績

同志社大学は、人文科学系、社会科学系、理工系、スポーツ･健康科学系まで幅広い分野の14学部16研究科及び日本語･日本文化教育センター等を有する総合大学となり、学生数約28000名のうち約1200名を世界各国からの留学生が占め、海外との交流もますます広がりをみせています。
日本語･日本文化教育センターは「外国人留学生」の受入れから、日本語及び日本事情や日本文化に関する充実した科目の設置・提供による教育支援や生活支援、短期プログラムの実施等、本学の「海外からの受入れ」に関わるあらゆる業務を担っています。

＜大学間協定数＞
46ヶ国　214大学　（2022年9月現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

年度	留学生数（5/1在籍数）	日研生（年度内受入数）
2022	1144人	24人
2021	1152人	22人
2020	1298人	7人

④ 地域の特色

今出川キャンパスは、京都御所の目の前という京都の中心に位置しています。
日本事情科目・国際事情科目では生け花や茶の湯、書道、座禅、祭りや寺社・博物館などへの学外見学など、体験型の授業が、多数提供されています。

1200年の歴史と伝統を誇る古都・京都の地の利を生かし、日本の伝統文化を本質的に理解することができる魅力的な科目を多数提供します。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(b)主に日本語能力の向上のための研修
（補助的に日本事情・日本文化に関する研修を行う）

② 研修・コースの特色

※充実した日本語科目群で、日本語力の向上と、目的に応じた演習や文化理解まで、幅広い学びを実践

※一人ひとりの実力に応じて学べる９段階別クラス編成

※日研生対象「特別クラス」での学外授業や文化体験

(1) 日研生は原則として日本語学習を主目的とする学生を対象とした《集中コース》で「日本語」を学びます。入学者の日本語能力にはかなりの差があり、同じクラスで授業を行うと学習に無理が生じるため、一人ひとりの能力により9段階に分け、きめ細やかで丁寧な指導が可能となるよう配慮しています。さらに日本語能力試験とビジネスに関する日本語に主眼をおいた「演習科目」も提供します。

(2) 日本語を中心とした多言語による日本の文化や社会に関する「日本事情科目」は、日本の言語・芸術・思想・宗教・歴史・社会・文化などに関する科目を設置しています。さらに、国際的な観点による「国際事情科目」を提供します。

(3) 歴史と文化の中心である「京都」を生かした、日研生対象の「特別クラス」では、企業見学、能楽堂・祇園祭の見学、地域の学校や京町家訪問、生け花や茶の湯体験など、様々な日本の伝統文化や社会を学ぶ機会も提供します。

③ 受入定員

25名（大使館推薦 24名 大学推薦 1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験（JLPT）N2程度以上の日本語能力を有すること。

⑤ **達成目標**　（⑩に含めて記載）

⑥ **研修期間（在籍期間）**

2023年 9月　～　2024年8月

⑦ **奨学金支給期間**

2023年10月　～　2024年8月

⑧ **年間行事・年間スケジュール**

【秋学期】　（9月～3月）

9月上旬	渡日・日本語ﾌﾟﾚｰｽﾒﾝﾄﾃｽﾄ
9月中旬	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
9月下旬	講義開始
11月26～28日	学園祭
12月下旬～1月上旬	冬期休暇
1月下旬～	期末試験
2月中旬～	春期休暇

【春学期】　（4月～8月）

3月中旬	日本語ﾌﾟﾚｰｽﾒﾝﾄﾃｽﾄ
4月上旬	講義開始
7月下旬	期末試験
8月	歓送記念礼拝（修了式）・帰国

⑨ **コースの修了要件**

所定の研修期間在学し、合計20単位以上を習得することを、コースの修了要件とします。

［各自のテーマを研究し発表する「研究ポスター発表会］

⑩ **研修・コース科目の概要・特色（⑤ 達成目標）**

Ⅰ．必修科目

（1） 日本語科目

Ⅱ．選択科目

登録できる科目は、日本語学習段階により異なります。

（2） 日本語演習科目

（3） 日本事情科目 ※◎

（4） 国際事情科目 ◎

（5） 学部・研究科目 ◎

※…現地、地域交流等の参加型科目を含む

◎…日本人学生との共修の機会がある科目を含む

Ⅰ．必修科目

(1) 日本語科目　10～22単位（300～660時間）

1科目 30時間（1単位）×5～11科目× 2ｾﾒｽﾀｰ

各学習段階とも「読む」・「聞く」・「話す」・「書く」の4技能を総合的に修得する科目と、『読解』・『語彙』・『文章表現』・『口頭表現』の技能別科目から構成されています。

＜文型・基礎語彙・基礎漢字の習得目標＞

レベルは学期始めに行うプレースメントテストで決定します。

レベル	学習段階	文型の定着	基礎語彙	基礎漢字
Ⅰ	初級前期	初級の基本的な文法	1500語	300字
Ⅱ	初級後期	初級前半の定着 初級後半～中級の文法	2000語	500字
Ⅲ	初中級	初級の文法事項の定着 中級の重要文型 約50	3000語	600-750字
Ⅳ	中級前期	中級の重要文型 約100	4000語	800字
Ⅴ	中級後期	中級の重要文型 約200	6000語	1000-1200字
Ⅵ	中上級	中級の重要文型 約200 上級の重要文型 約50	8000語	1500字
Ⅶ	上級前期	中級の重要文型 約200 上級の重要文型 約100	10000語	2000字
Ⅷ	上級後期	上級の重要文型 約100 高度な日本語の習得と運用力を養成する	10000語	2000字
Ⅸ	超上級	より高度な日本語の習得と運用力の養成を目指す。		

Ⅱ．選択科目

(2) 日本語演習科目　1科目 30時間（1単位）×選択数

主として日本語能力別に日本語能力試験や日本留学試験等に備えた演習を行います。

※…現地、地域交流等の参加型科目

科目名	学習段階／目的	日本語レベル
日本語総合演習Ａ	日本語初級	Ⅰ-Ⅱ
日本語総合演習Ｂ	日本語能力試験 N3	Ⅲ-Ⅴ
日本語総合演習Ｃ	日本語能力試験 N2	Ⅳ-Ⅵ
日本語総合演習Ｄ	日本語能力試験 N1	Ⅴ以上
中級日本語文法概説Ａ/Ｂ	中級レベル日本語文法	Ⅳ-Ⅵ
上級日本語文法概説Ａ/Ｂ	上級レベル日本語文法	Ⅵ以上
※日本語特講演習	論文・研究発表	Ⅴ以上
ビジネス日本語Ａ/Ｂ/Ｃ/Ｄ	ビジネスに関する日本語	Ⅰ-Ⅸ

(3) 日本事情科目　1科目 30時間（2単位）×選択数

芸術・哲学・宗教・法律・政治・経済・歴史など幅広く日本の生活や社会について学ぶことができます。華道の実習や能楽など古典芸能の見学を通して日本の伝統や文化を学ぶことは、日本を理解する上で大きく役立つ体験となります。

※…現地、地域交流等の参加型科目

◎…日本人学生との共修の機会がある科目

＜参考：2022年度開講科目＞

	科目名
	日本の文学Ａ/Ｂ
	日本の思想･宗教１/２
	日本の歴史1/2
	日本の社会1/2
※	日本の文化１/２
※	日本の文化特講Ａ/Ｂ
	日本の教育
	日本の伝統と人間形成
※◎	日本の伝統と美 -いけばなの語るもの-
※◎	日本の伝統と文化 -日本人の見た花の美しさ-
※◎	日本の伝統と文化 -着物が伝える日本の心と京都の暮らし-
※◎	日本の伝統と芸能 -雅楽-
※◎	日本の伝統と芸能 -仮名手本忠臣蔵を読む-
※◎	日本の伝統と能楽 -能楽を通してみる日本の伝統文化-
※	日本の現代芸術
	日本の芸術１/２
	比較文化論Ａ/Ｂ
◎	日本とアジア１/２

［日本の伝統や文化を体験・見学する授業の様子］

(4) 国際事情科目　1科目 30時間（2単位）×選択数

宗教・歴史・ビジネス・メディアなど多様な分野を国際的な観点からとらえた専門性の高い内容の科目です。

◎…日本人学生との共修の機会がある科目

科目名　＜参考：2022年度開講科目＞
世界の歴史１/２
◎ 国際比較文化論
◎ 国際ビジネスA/B/C
◎ 国際比較メディア論

(5) 学部・研究科科目

十分な日本語能力があると判断された場合には、学部や研究科の開講科目を履修することができます。

◎…日本人学生との共修の機会がある科目を含む

⑪ 指導体制

日本語指導にあたるのは、海外や他の教育機関において豊富な日本語教育の経験を持つ、日本語教育学・日本語学・言語学専門のエキスパートです。

＜指導教員＞

・専任教員　6名　　・嘱託講師　約50名

［同志社大学今出川キャンパス］

■日本人学生との交流

日研生は、学内の施設を利用することができます。「国際交流ラウンジ」や食堂では日本人学生と活発に交流がされています。

日本語の勉強、スキルアップ、日本人の友達作りにもお勧めです。

自主的な学習施設「ラーニング・コモンズ」では、日本人学生と気軽にコミュニケーションができる環境を提供します。

https://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/

サークル活動も盛んで、参加可能なクラブやサークルがたくさんあります。　https://d-live.info/

さまざまな交流イベントも開催しています。

https://www.doshisha.ac.jp/international/communication/event.html

1. International Day

日本人学生と外国人学生との交流会です。

2. SIED企画イベント

SIED（シード＝Student Staff for Intercultural Event at Doshisha）とは、学生が主体となり、国際交流イベントを企画・実施する組織で、日本人学生と外国人学生の国際交流イベントを、多数企画・開催しています。

https://ois.doshisha.ac.jp/international_exchange/sied.html

■宿　舎

留学生と日本人学生が共に生活し、学びあえる本学初の教育寮「継志寮」が2021年9月に開寮しました。1ユニットは、留学生2名と日本人学生3名それぞれの個室部分と5名共有のリビングからなり、自然に交友関係が広がります。

「継志寮」以外にもいくつかの宿舎があり、日研生は研修期間中、同志社大学の留学生用宿舎に入居できます。

https://student-support.doshisha.ac.jp/student-life/boarding-dormitory/education-dormitory.html

■修了生へのフォローアップ

修了生の近況についてのフォローアップ調査では、本学での日本語や日本文化に関する学びをいかして、大学院に進学、日本語の教員になるほか、日系の企業に就職するなど、現在も日本と関わり続けている修了生が多く、様々な活躍の報告があります。

進学や就職で日本にいる修了生が多いので、先輩に薦められて本学を選択した学生も多く在籍しています。

また、2021年10月、修了生へ向けたニュースレター『つなぐ～CJLC Newsletter』を創刊しました。年2回発行し、最近の大学ニュースや授業紹介、修了生の声などを掲載して、繋がりを継続しています。

■問合せ先

同志社大学
日本語・日本文化教育センター

ウェブサイト　https://cjlc.doshisha.ac.jp

＜担当部署＞　国際教養教育院事務室

住所：〒602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学　弘風館5階
【TEL】+81-75-251-3240
【FAX】+81-75-251-3242
【E-mail】 ji-nbn@mail.doshisha.ac.jp

開室時間：月曜日～金曜日
9：00～11：30／12：30～17：00

同志社大学ウェブサイト
https://www.doshisha.ac.jp

大阪樟蔭女子大学（大阪府）

創立100周年の伝統・多角的な生活文化の学び舎の名門女子大学

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

大阪樟蔭女子大学は、2017年に創立100周年を迎えた我が国有数の女子高等教育機関です。

1917年（大正6年）大正デモクラシーが花開くその時代、樟蔭学園は「現代女性のための理想的な学園の創造」を理念に誕生しました。

樟蔭女学校では深緑色の袴が制服でした。袴は、明治期から女性の制服として採用され、大正期には競ってそれを身につけました。本学では今も「深緑色の袴」がシンボルとして捉えられ、入学式、卒業式などの行事には多くの女子学生が袴を身につけ、伝統を大事にしています。

「女子大90キャンパス立地偏差値ランキング」において関西No.1の抜群の立地条件の下、2015年4月にはキャンパスがリニューアルされ、最新鋭の教育施設、設備を備えた理想的な教育環境で学ぶことができます。少人数を生かした、きめ細やかな学習指導とサポート体制が特徴です。また、正規外国人留学生が近年増加傾向にあり、国際交流が活発です。

（2022年5月1日現在）
教員数　：　98 名
学生数　：　2,424 名

② 国際交流の実績

本学は9カ国12大学と大学間協定を結んでいます。派遣留学プログラムとしてはこれまでにアメリカの大学への短期・中期・長期研修、カナダとポーランドの大学への短期研修、オーストラリアの大学への中期研修、ニュージーランドの大学への短期・中期研修、フィリピンと韓国の大学へのオンライン研修が行われています。ベトナムの大学への短期研修やマルタ、韓国の大学への中期研修も予定されています。

受入プログラムとしては、短期を中心に、日本語研修、多彩な日本文化研修の他、奈良や京都の文化遺産を見学するプログラムも提供しています。2012年度より日本語日本文化研修留学生を受け入れています。また、2014年度より春には、アメリカのカリフォルニア州立大学フレズノ校から短期留学生を受け入れ、日本語・日本文化研修留学生（以下、「日研生」とする）、本学学生が一緒になって交流活動を行っています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数13人、日研生0人
2021年：留学生数11人、日研生0人
2020年：留学生数 4人、日研生0人

④ 地域の特色

本学は大阪府東大阪市の菱屋西という閑静な地域にあります。東大阪市は大阪市の東に隣接し、関西エリアの文化と経済の中心都市である大阪、奈良、京都、神戸へのアクセスの良い中核都市です。最寄り駅の河内小阪は大阪の中心地である難波や梅田へも電車で20分以内と便利です。歴史と観光の地で有名な京都、奈良へも電車で1時間足らずで行くことができます。東大阪は世界品質を誇る中小のメーカーが密集する日本のモノづくりの拠点でもあり、市内には本学を含めて4つの大学がある教育都市です。

■研修・コースの概要

①研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

1）本プログラムは、日研生用の日本語と日本事情の特設科目と、日本人学生と共通の多彩な指定科目から構成されています。

2)指定科目は、日本の「生活文化分野の科目」と、日本の伝統文化からサブカルチャーまでの多彩な「日本文化分野の科目」から構成され、興味に合わせて受講できます。本学の特色となる指定科目を受講する際に、それぞれの分野の専門家に相談することができます。

3）「生活文化分野の科目」には、ファッションと化粧文化に関する多彩な授業があり、日本の身装文化をトータルに学ぶことができます。

服飾文化だけでなく、化粧文化について理論と実践の両面からアプローチします。化粧学を体系的に学べるのは本学だけです。

4）「日本文化分野の科目」には日本の伝統文化に加え、 現代の日本文化を理論と実践の両面から学べる科目が用意されています。

③ 受入定員

5名（大使館推薦のみ）
※受入れは2名以上から可

④ 受講希望者の資格、条件等

このプログラムの受講を希望する学生は、以下の要件を満たしているものとします。

1) 女子学生であること。
2) 日本語・日本文化に関連する分野を専攻していること。
3) 授業を理解するのに十分な日本語能力を有すること（N3以上の日本語能力を有していることを推奨する）。

⑤ 達成目標

近代から現在に至るまでの日本の生活文化の特徴について理解を深め、そのテーマに関して日本語で研究発表をし、レポートを書くことができるようになることを目標としています。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2023年9月中旬　～ 2024年9月下旬
（2023年10月1日 ～ 2024年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月　～　2024年9月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月中旬：渡日（2017年は9月19日）、
　　オリエンテーション
10月：大学祭
11月：秋の宿泊見学旅行
12月：クリスマスパーティ
1月：学外研修
5月：春の宿泊見学旅行、
　　アメリカ・カリフォルニア州立大学フレズノ校大学生との交流パーティ
6月：学外研修
7月：研究発表会
9月：修了式
9月下旬：帰国（2018年は9月24日・25日）

⑨ コースの修了要件

本プログラムは以下の要件を満たした者に修了認定を行い、修了証書と成績証明書を発行します。

1) 日研生用の特設科目および指定科目を合わせて20単位以上履修していること。
2) 関心のあるテーマに関して研究発表（公開）を行い、その内容をレポートとして提出していること。

●本プログラムを修了の上、当初の研究課題が十分達成されており、早期に帰国しても差し支えがないと判断された場合、日研生が母国の大学での新学期開始の準備等のため早期帰国を希望する場合は、早期終了が認められます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修プログラム科目の特徴

日研生用の日本語科目は、日研生に特化した科目ですので、学生のレベルに合わせてカスタマイズできます。また選択科目は日本人学生と同じクラスで学びます。

２）研修プログラム開設科目

Ⅰ）必須科目：日研生用特設科目

科目名	秋期	春期
日本語A，B	30時間	30時間
日本語C，D	30時間	30時間
日本語・日本文化研究A，B	30時間	30時間
日本事情A，B	30時間	30時間

日本語A・B・・・日本語（聞く・話す中心）
日本語C・D・・・日本語（読む・書く中心）
日本語・日本文化研究A・B・・・研究発表・
　　レポートに向けて
日本事情A・B・・・日本の生活文化、社会実情
　　（学外授業含む）

Ⅱ）選択科目：学部学生と共通の選択科目

a. 生活文化分野の主な科目（各30時間）

◎「化粧の歴史」（30時間）の概要：日本における化粧の歴史を学びます。化粧の変遷を見ることを通して、社会と人間の関係がわかります。

◎　その他の科目例：「服飾文化論」「化粧文化論」「グローバル化と食」「フードビジネス論」「現代ビジネス論」「女性のライフサイクル」「ジェンダーを考える」など

b. 日本文化分野の主な科目（各30時間）

◎「日本の食と文化」（30時間）の概要：日本の食文化と食事情についての講義を通じて、日本の食文化の変化、発展、多様性とともに、現代日本における食にまつわる様々な問題について学びます。

◎その他の科目例：「日本文化論」「樟蔭の窓」「日本文学概論」「日本書道史」「英語で学ぶ日本文化」「日本語学」「日本語教育学概論」「サブカルチャー論」「日本文化実習」など。また日本語教員養成科目も選択できます。

３）見学、地域交流等の参加型科目

さまざまな学外授業に参加できます。寺院、神社、能・狂言・歌舞伎・文楽などの日本の伝統的な文化財や文化施設だけでなく、神戸ファッションミュージアムや京都マンガミュージアムのような施設で日本の現代文化を体験することができます。また地域の行事に参加し、地域の住民と交流します。

４）日本人学生との共修等の機会

すべての選択科目は、日本人学生と共に学ぶことになっています。

⑪ **指導体制**

●学生は、学芸学部に所属します。本プログラムの履修方法等の指導は、日本語教育の専門家が行います。

●興味のあるテーマに合わせてその分野の専門の教員が研究の助言を行います。

●日本語学習のサポートは日本語教育の専門家が責任を持って行います。日本語能力試験対策の補講も実施しています。
（2018年、N1に1名、N2に1名合格）

●本学学生によるチューターが日本語学習や日常生活のサポートを行います。また、学内で友人の輪を広げる手伝いもします。学生生活一般については、樟蔭国際学習センターの職員（元日研生の職員を含む）がサポートします。

■宿舎

留学生専用の寮はありませんが、大学周辺の民間アパート（月40,000円から60,000円程度）を紹介することが可能です。

樟蔭国際学習センターで、ホストファミリーを紹介します。希望があれば、夏季休暇やお正月を利用して日本の家庭に短期間滞在することができます。

■その他

学内の樟蔭国際学習センターでアルバイトが可能です。

●職務内容：英会話講師

●事前に英語レベルチェックと面接を行います。

●時間：最長10時間/週、資格外活動届けの手続きが必要です。

■修了生へのフォローアップ

日研生が自国の大学に戻ってからも、日本についての研究を継続してできるよう、プログラム修了後も相談できるような体制を整えています。またEメールにより、過去の修了生と自由にコンタクトが取れます。必要に応じて樟蔭国際学習センターといつでもメールを通じてやり取りができるようにしています。

修了生の声

2012年に大阪樟蔭女子大学に日研生として留学し、母国の大学を卒業してから職員として戻ることができました。現在、樟蔭国際学習センターに勤務し、日研生を担当しています。留学生活について質問・悩み等があれば、いつでも気軽に相談してください。

■問合せ先

＜担当部署＞
学校法人樟蔭学園　樟蔭国際学習センター

住所：　〒577-8550
大阪府東大阪市菱屋西4-2-26

TEL：　+81-6-7507-2112（直通）
FAX：　+81-6-6723-8313
Email：kokusai@osaka-shoin.ac.jp

＜ウェブサイト＞
大阪樟蔭女子大学国際交流ホームページ
http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/international/(日本語)
http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/english/students/index.html(英語)

大阪樟蔭女子大学ホームページ
http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/(日本語)
http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/english/(英語)

日研生ホームページ
https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/international/accept/nikkensei/

神戸女子大学 （兵庫県）

KWU Program 国際都市神戸で学ぶ日本語、日本文化、古典芸能

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

神戸女子大学は、国際的な港町神戸市内に三つのキャンパスを持つ女子大学です。須磨キャンパス、ポートアイランドキャンパス、三宮キャンパスです。
三つのキャンパスには、文学部、家政学部、健康福祉学部、看護学部、心理学部と大学院を備えています。

設立時から、世界平和と人類の福祉に貢献しようとする女性の育成を目指し、自立心、対話力、創造性の豊かな女性への教育を進めています。

留学生は、主に須磨キャンパスで、日本語・日本文化研修を行います。

1）学生数

学部・大学院で約3千人の学生が学んでいます

② 国際交流の実績

アメリカ、中国、インドネシア、ニュージーランド、ドイツ、タイなどの大学と提携を結び、交換留学や留学制度を実施しています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数 2人、日研生1人
2021年：留学生数 2人、日研生1人
2020年：留学生数 1人、日研生1人

④ 地域の特色

神戸市は、国際的な港町で、兵庫県にあります。さまざまな国籍の外国人が多く住んでいるため、留学生には住みやすい町です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b)主に日本語能力の向上のための研修
日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的な日本語事情・日本語文化に関する研修を行うもの。

② 研修・コースの特色

コースは、留学生のための日本語クラスと、日本人学生との共通の科目から成り立っています。日本語は少人数クラスで集中して学ぶことができ、高いレベルの日本語力を身につけることができます。
また、古典芸能研究センターや古典芸能に関する授業で、能、文楽、歌舞伎などの古典芸能に触れることができます。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

・コースの授業に参加できる十分な日本語力を備えていること(JLPT N2と同等レベルかそれ以上)。
・女子であること。

⑤ 達成目標

日本語力の向上と日本文化、古典芸能への興味と親しみを増すことを目標とします。未取得者は、N1試験の合格を目標とします。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬～2024年8月下旬
（在籍期間：2023年9月1日～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年9月　～　2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日

9月：　オリエンテーション、授業開始

11月：　創立記念日、コスモス祭

12月：　下旬から約2週間冬休み

1月：　下旬授業終了、春休み

5月：　スポーツ大会

7月：　すいか祭り、下旬授業終了、夏休み

8月：　修了式

8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

・コースの修了には､必修科目24単位、選択科目6単位を含む26単位以上の単位の取得が必要です。
・コースを修了するためには、以下の科目から、必要な単位を取得してください。
・必修科目と選択科目を合わせて、1年間で規定の単位を取得した研修生に、修了証書を与えます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴
　能、文楽、歌舞伎などの古典芸能について学ぶこともできます。

２）研修・コース開設科目

Ⅰ）必須科目（10コマ、900時間）

・内容・・・単位がある科目
a. 留学生のみが参加
　日本語Ⅰ､Ⅱ・・・中級日本語を読む・書く
　日本語Ⅲ､Ⅳ・・・中級日本語を聞く・話す

b. 日本人学生との共修
　日本語教育特講Ⅰ､Ⅱ・・・外国人日本語学習者の音声、文法などについて学ぶ。
　日本語日本文学演習Ⅱ・・・演習科目
　日本語学概論　Ⅰ､Ⅱ・・・日本語の基礎

・内容・・・単位がない科目
　学外研修・・・能、文楽、歌舞伎見学、地域交流等の参加
　学習成果発表会・・・研修成果の発表
　卒業論文・・・指導教員の指導により、卒業論文（レポート）を作成します。作成した論文の内容は、学習成果発表会で発表します。

Ⅱ）選択科目（6コマ以上）

・内容

日本語力に応じて、文学部、家政学部を中心に、全学部の科目が受講できます。

日本語教授法Ⅰ・・・日本語の教え方

日本語実習・・・日本語教育実習

言語学概論・・・言語学の基礎

日本語日本文学入門Ⅰ､Ⅱ・・・専門分野入門

外国語科目・・・英語、朝鮮語など

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

須磨地区で地域交流に参加したり、大学内でフィールドワークやワークショップなどの参加型の授業を受講したりします。

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

「留学生のための日本語(日本語ⅠからⅣ)」以外の授業は、日本人学生とともに学修し、ゼミや学外研修にも参加します。

日本語教育特講Ⅰ､Ⅱ

日本語日本文学演習Ⅱ

日本語日本文学入門Ⅰ､Ⅱ

⑪ 指導体制

留学生には、それぞれ希望研究分野の指導教員をつけます。また、生活面は、国際交流推進事務室と日本人学生チューターがフォローします。

■宿　舎

本学学生寮とします。

■修了生へのフォローアップ

プログラム修了後は、「神戸女子大学留学生会」に所属し、メール等で指導教員や国際交流推進事務室と連絡・交流を継続します。

■問合せ先

＜担当部署＞
神戸女子大学　国際交流推進事務室
（須磨キャンパス）

住所：　〒654-8585
　　兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2-1

TEL：　+81-78-737-2095（直通）
FAX：　+81-78-732-5161
Email：　kokusai@yg.kobe-wu.ac.jp

＜ウェブサイト＞
神戸女子大学：
　http://www.kobe-wu.ac.jp

山陽学園大学 （岡山県）

講義を受講するだけでなく、体験学習を盛り込んだプログラムです。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1886年（明治19年）、山陽英和女学校として誕生した山陽学園は、現在、大学院、大学、短期大学、高校、中学校、短期大学附属幼稚園の6機関から構成される総合学園になりました。

大学は1994年に開学し、看護学部・総合人間学部（ビジネス心理学科、言語文化学科）・地域マネジメント学部の3学部、4学科で、同じ敷地内に健康栄養学科とこども育成学科を持つ短期大学、そして短期大学附属幼稚園があります。

大学、短期大学併せて学生数1000人程度の小さな大学ですが、それだけアットホームな雰囲気で教員と学生の距離が近く、教員が親身になって相談に乗ってくれるという利点があります。

クラブ活動も盛んで、バレーボール部、卓球部、バドミントン部、軽音楽部、茶道部、児童文化部、日本語ボランティア部、うらじゃ部等が熱心に活動しています。毎年8月に行われる「うらじゃ祭り」には、留学生・日本人が一緒になった「山陽学園大学ワンダフルワールド」チームで参加しています。さらに、日本語・日本文化研修留学生や中長期留学生のような、半年から1年を本学で過ごす学生のために、日本語ボランティア部の学生が、日本語指導や生活のサポートを担当しています。

また、大学の総合人間学部・言語文化学科には、インドネシア、台湾、中国、ベトナムから留学生が来ており、和気藹々とした雰囲気で勉強に励んでいます。常勤・非常勤教員・職員としては、日本人の他に、アメリカ人、アイスランド人、イギリス人、オーストラリア人、カナダ人、韓国人、中国人のスタッフがいます。

② 国際交流の実績

受け入れに関しては、オーストラリア、韓国、台湾、中国、ポーランドの大学間協定校や高校の姉妹縁組校から、中長期留学生、インターンシップ生、日本語・日本文化研修留学生を受け入れ、台湾・中国からはダブルディグリー生も受け入れています。派遣に関しては、アメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、台湾、ニュージーランド、ポーランドの協定校や姉妹縁組校に、中長期留学、語学研修、日本語教育実習、異文化理解実習で訪問しています。

大学間交流協定数　20大学
姉妹縁組校　　2高校

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2022年：留学生数23名、日研生1名
2021年：留学生数33名、日研生1名
2020年：留学生数41名、日研生0名（1名延期）

④ 地域の特色

岡山県は、「晴れの国　岡山」と言われるほど全国の中で「晴れの日」が最も多く、瀬戸内海の温暖な気候に恵まれた県です。フルーツ王国として昔から桃やぶどうが有名でしたが、近年は津山ホルモンうどん、蒜山焼きそば、日生のかきのお好み焼きなど、Ｂ級グルメ王国としても注目されています。その岡山県の南部にある、人口約70万人の県庁所在地・岡山市は、中国地方の交通の要で、四国・九州・山陰・関西のいずれの地方に行くにも便利なだけでなく、日本三大庭園の一つである後楽園など、歴史的な見所も多いです。また2月には、奇祭「西大寺裸祭り」、8月には桃太郎にちなんだ「うらじゃ祭り」も行われます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a)主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化の両方が学べます。

小規模大学の特色を生かし、学部生と同じ授業に出席することで、日本人及び留学生との交流を図ります。

また、講義の受講に留まらず、演習科目を受講したり、祭りや研修旅行に参加したりすることで日本での体験を増やし、理論と体験を組み合わせたプログラムを組んでいることが特色です。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

・JLPT2級に合格している、または同等のレベルであること。

・学部の授業についていける日本語力のある者。

⑤ 達成目標

・コース修了者はJLPT2級以上の取得、または前回より高い点数取得を目標とする。

・修了レポートを作成し、担当教員のゼミで発表する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2022年9月20日頃～2023年8月10日頃

ただし、日本には8月3週目～下旬まで滞在する必要あり。

⑦ 奨学金支給期間

2022年10月　～　2023年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月	渡日、オリエンテーション（9月20日頃）
10月	日本語・日本文化研修留学生歓迎会
	創立記念式典参加（中学校・高校見学）
	大学祭参加
11月	就職懇談会参加
12月	クリスマス会参加
1月	ホームビジット体験
2月	ゼミ卒論発表会参加、裸祭り見学
3月	卒業式見学
4月	入学式、新入生オリエンテーション見学
	中長期留学生歓迎会参加
	新入生１日研修参加
5月	小学校学童保育見学
6月	オープンキャンパス参加
7月	日本語弁論大会参加または見学
8月	うらじゃ祭り参加、修了式
	帰国（8月3週目頃）

⑨ コースの修了要件

・必修科目12単位、選択科目（16単位（以下、Ⅱ、Ⅲの開設科目を参照）、合計28単位以上を取得すること。ただし、必修科目の履修時間が重複し、両方履修できない場合、他の科目履修で代替可。

・上記28単位以上を取得した場合、成績証明書の発行可。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴

以下の4種類を主として実施する。

・日本語能力向上のための科目

・日本事情・日本文化関係の科目

・日本に触れるアクティビティ系の科目

・修了研究に関する科目

２）研修・コース開設科目

Ⅰ）必須科目（90分ｘ15回）　12単位

①～⑤　1科目1単位　⑥～⑦　1科目2単位

・内容

①日本語C・日本語D･･･聴解・会話・N1文法・語彙

②日本語E・日本語F･･･読解

③日本語G・日本語H･･･読解

④日本語・日本事情A･･･日本の文化を学ぶ。

⑤日本語・日本事情B･･･日本の文化を学ぶ。

⑥特別研究･･･レポート作成のための演習。

⑦卒業研究Ⅰ･･･修了レポート作成のための演習。

Ⅱ）選択科目（90分ｘ15回）　12単位

1科目2単位　以下の①～④から選択

①日本を知る科目

日本史、日本文学特講、古文書学概論、日本文化論など

②日本と諸外国の交流について知る科目

日中関係史、朝鮮の歴史と文化など

③日本語教育関係科目

日本語学概論、日本語教授法など

④その他

心理系、ビジネス系、情報系、英語系などの科目

３）研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

見学、地域交流等の参加型科目　6単位

①異文化理解演習①Ⅰ、Ⅱ　2科目4単位

②交流体験（見学、地域交流等への参加）　2単位

・日本語ボランティア部部員との日本語会話交流

・大学祭での昔話の読み聞かせ（翻訳を含む）

・ホームビジット体験

・学童保育見学

・中学校・高校などの見学、生徒との交流

・うらじゃ祭り参加、裸祭り見学

・日本語弁論大会参加または見学

・新入生オリエンテーション参加

・入学式・卒業式、ゼミ発表会等見学

・就職活動体験

就職説明会、就職懇談会等への参加

・クラブ活動等参加

・日本文化体験（自己選択）

例：演劇鑑賞、研究会参加

・自国文化紹介体験（自己選択）

例：地域から依頼された活動

・その他

４）日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語C～H　日本語・日本事情A～Bを除きすべて日本人学生との共修あり。

⑪ 指導体制

・共生・グローバル推進センターWG委員、日本語担当教員が主になって指導する。

・日本語ボランティア部の部員（主に総合人間学部言語文化学科の学生）が交流の計画を立てたりサポートをしたりする。

・必修科目の担当教員名は以下の通り。

①日本語C・日本語D･･･山根智恵
②日本語E・日本語F･･･佐藤雅代
③日本語G・日本語H･･･班偉
④日本語・日本事情A･･･茶道・剣道・柔道などの専門家（コーディネーター　山根智恵）
⑤日本語・日本事情B･･･古川徹他
⑥特別研究･･･山根智恵
⑦卒業研究Ⅰ･･･山根智恵

・その他の科目の担当者は、山陽学園大学の常勤・非常勤講師

うらじゃ祭りの様子

■宿　舎

留学生向けの寮はありませんが、大学の近くにはアパートが多くあり、大学で紹介することが可能です。また、ゲストハウスもあります。詳細は以下の通りです。

①月払いでゲストハウスのような宿舎に住む場合、月3万円～4万円（個室、共同風呂・トイレ・台所有。電気代・ガス代・インターネット代込）です。敷金（最初に支払うお金。2万円程度。帰国時に一部返却される場合もあります）を最初に支払う必要があります。現金払いです。

②アパートの場合、月約5万円～6万円（個室で風呂・トイレ・台所・家具有。電気代・ガス代・インターネット代込）です。入居時に約15万円（退去時の清掃代・鍵交換代等）をクレジットカードで支払う必要があります。毎月の家賃は口座引き落としまたはクレジットカード払いになります。

＊岡山は自転車王国で、本学から駅周辺まで自転車で行くことができるため、交通費がほとんどかかりません。自転車は無料で本学が用意します。

歓迎会の様子

■修了生へのフォローアップ

現時点では、日本語担当教員が日本語・日本文化研修留学生の国を訪れることがあった場合、その時に会って様子を聞き、フォローアップに努めています。常にメールで連絡を取り合うことができる状況も作っています。今後はオンライン交流会を行いたいと考えています。

また、在学時に知り合った学生たちと個別にネットワークを構築している研修生もおり、そのような学生については、日本語担当教員は本学卒業生・学生から情報を得ています。

■問合せ先

＜担当部署＞
山陽学園大学共生・グローバル推進センター
住所：〒703-8501
岡山県岡山市中区平井1-14-1

TEL：　+81-86-901-0519（直通）
FAX：　+81-86-273-3226（代表）
Email：chie@sguc.ac.jp（担当教員）
for.stu@sguc.ac.jp（センター職員）

＜ウェブサイト＞
山陽学園大学：
http://www.sguc.ac.jp/